

第1編 伊勢市の現況整理

1. 伊勢市のバリアフリーに関する現況（まとめ）

1-1. 現況整理

伊勢市のバリアフリーに関する現況について以下の表にまとめた。また、各項目のデータについては、1-3 ページ以降に整理した。

表 現況整理のまとめ（1/2）

項目		まとめ
人口・ 障がい者数	人口	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は 1985（昭和 60）年以降減少傾向にあり、2015（平成 27）年時点では約 13 万人を下回っている。 ・2045（令和 27）年には約 9 万人まで減少する。 ・地区別人口は有絹地区と小俣地区で最も多い。 ・地区別高齢化率は早修地区が最も多い。
	年齢別人口	<ul style="list-style-type: none"> ・15 歳未満（年少人口）、15～64 歳（生産年齢人口）が 1985（昭和 60）年以降減少傾向にある。 ・65 歳以上（老年人口）は減少傾向にあるが、総人口の内、65 歳以上が占める割合は増加していくため、高齢化率は増加傾向にある。
	障害者等手帳 所持者の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者等手帳の所持者は年々増加傾向にある。 ・身体障害者手帳の所持者は減少傾向にある。 ・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持者は増加傾向にある。 ・等級別では 1 級で増加傾向にあり、その他の等級は横ばいもしくは減少傾向にある。また、所持者数は 1 級が最も多く、次いで 4 級と 3 級が多い。 ・部位別では内部障がいが増加傾向にあり、その他の部位は減少傾向にある。また、肢体障がいが最も多く、次いで内部障がいが多い。
都市施設の 立地状況	駅別立地状況	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市内の生活関連施設候補の立地状況として、市内の中心地である「伊勢市駅周辺」「宇治山田駅周辺」に官公庁や商業施設が集中している。 ・観光に関連する施設は「伊勢市駅周辺」「宇治山田駅周辺」「二見浦駅周辺」などに集積している。
観光動態	伊勢市観光客 数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・2005（平成 17）年から増加傾向にあり、神宮（外宮・内宮）の参拝者はおおむね 800 万人以上で推移しており、式年遷宮のあった 2013（平成 25）年、その次年の 2014（平成 26）年では 1,000 万人を超えている。 ・神宮の車いす利用台数は 2010（平成 22）年から微増傾向にある。
	宿泊容量 メッシュ	<ul style="list-style-type: none"> ・神宮（外宮）を最寄りとする伊勢市駅（JR・近鉄）並びに二見興玉神社を最寄りとする二見浦駅周辺において、宿泊容量が大きい。
	主要施設の 観光客入込数	<ul style="list-style-type: none"> ・神宮（外宮・内宮）およびその周辺が最も多い。 ・その他に観光客の多い地域として、二見浦駅周辺がある。

表 現況整理のまとめ (2/2)

項目		まとめ	
観光動態	観光客実態調査	<ul style="list-style-type: none"> ・現在訪れている観光地周辺のバリアフリーについて不便だと感じる場所について、「特に不便はない」が最多だが、次いで「徒歩・車いすでの移動経路（歩道の段差、幅、視覚障害者誘導用ブロックなど）」「多機能トイレの数・場所」という回答が多かった。 ・市の観光バリアフリー等に関する取り組みの認知度について、「該当なし」を除くと、「手荷物預かり・配送【有料】」が12.6%（48人）、「車いすのレンタル」が12.1%（46人）となっている。 	
公共交通	鉄道・駅	乗客数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・JR線の鉄道乗客数は伊勢市駅が最も多く、増加傾向にある。次いで多い駅は五十鈴ヶ丘駅、宮川駅、二見浦駅である。また、近鉄線の鉄道乗客数は宇治山田駅が最も多く、2013（平成25）年をピークに減少傾向にある。次いで多い駅は伊勢市駅で増加傾向にある。
		乗降客数	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市駅（JR・近鉄）が最も多く、次いで宇治山田駅である。また、その他の駅では明野駅、五十鈴川駅で1日あたりの平均乗降客数が2,000人を超えている。
		鉄道駅のバリアフリー状況	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市駅、宇治山田駅、五十鈴川駅、明野駅に駅員が常駐している。 ・車いすが利用可能な通路は伊勢市駅、小俣駅、宮町駅、宇治山田駅、五十鈴川駅が該当する。
	バス	路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスで最も利用の多い路線は外宮内宮線で、次いで御座線、サンアリーナ線、CANバスが多い。
		コミュニティバス	<ul style="list-style-type: none"> ・おかげバスの辻久留・藤里ルートの利用者数が最も多く、次いで東大淀・日赤ルート、二見ルートが多くなっている。 ・おかげバスデマンドでは粟野ルート、小木・田尻ルートで約1,000人以上の利用があり、沼木バスは買い物用が最も多い。
		1日あたりのバス停別乗降客数	<ul style="list-style-type: none"> ・神宮（内宮）の最寄りバス停である「内宮前」が最も多く、約2,000人/日以上である。 ・次いで、伊勢市駅・宇治山田駅の最寄りバス停である「宇治山田駅前」「伊勢市駅前」が1,600～1,800人/日である。
道路	広域道路ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の道路の83.4%が市道となっており、そのうち約6.0%にあたる約62,000mが未舗装である。 	
	都市計画道路	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路は、29路線、計81,304mが計画されており、76.9%（62,553m）が整備済みである。 	

2. 人口・障がい者数

2-1. 人口

本市の人口は1985年（昭和60年）以降減少傾向にあり、2015年（平成27年）時点では130,000人を下回っている。伊勢市人口ビジョンの平成25年推計値では、今後も人口減少が続くと推計されており、2025年（令和7年）は約110,000人、2045年（令和27年）は約90,000人まで減少する。

一方、1985年（昭和60年）以降、世帯数は増加傾向にあり、2015年（平成27年）時点では約50,000世帯となっている。

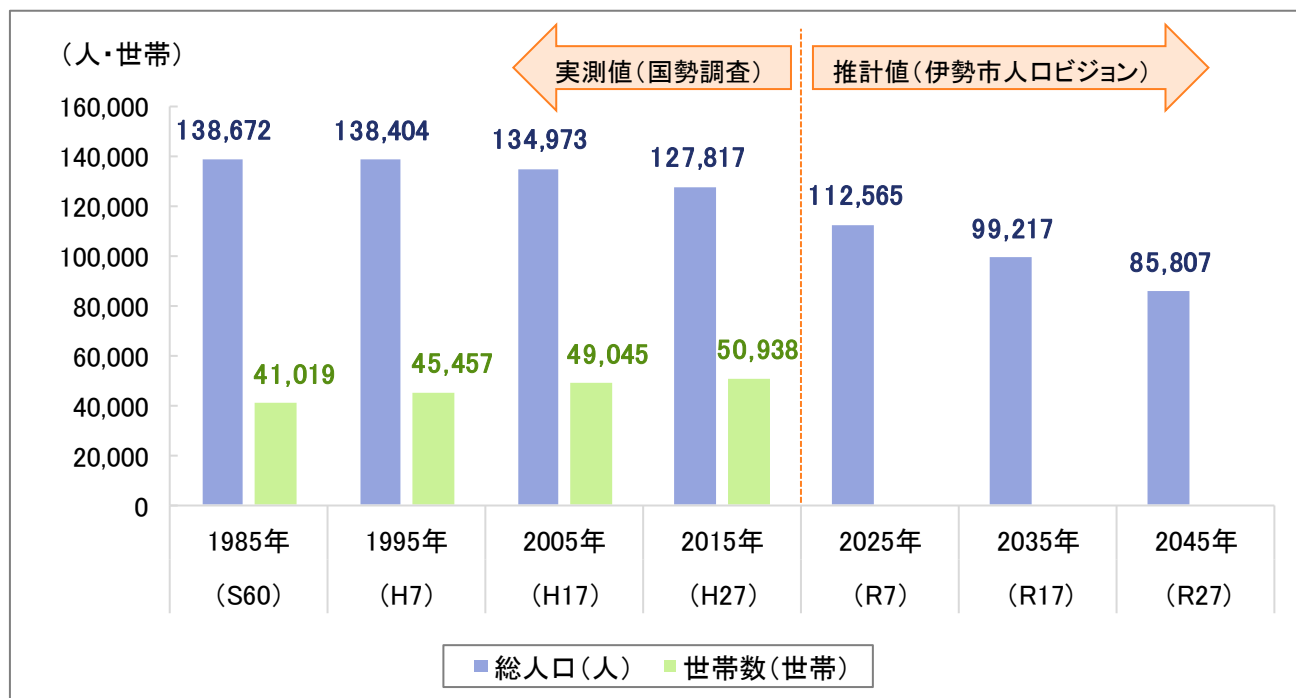


図 人口・世帯数

資料：国勢調査（1985年～2015年）

資料：伊勢市人口ビジョン（平成25年推計値）（2015年～）

2-2. 年齢別人口

本市の年齢別人口は15歳未満（年少人口）および15～64歳（生産年齢人口）が1985年（昭和60年）以降減少傾向にあり、2015年（平成27年）時点では15歳未満（年少人口）が約16,000人、15～64歳（生産年齢人口）が約74,000人である。今後も15歳未満（年少人口）および15～64歳（生産年齢人口）は減少傾向が継続すると推計されており、2025年（令和7年）には15歳未満（年少人口）は約12,000人、15～64歳（生産年齢人口）は約63,000人まで減少し、2045年（令和27年）には15歳未満（年少人口）は約8,000人、15～64歳（生産年齢人口）は約43,000人まで減少する。

一方、65歳以上（老年人口）も減少傾向にあるが、総人口の内、65歳以上（老年人口）が占める割合は増加していくため、高齢化率は上昇傾向にある。65歳以上（老年人口）は2015年（平成27年）時点で約37,000人、2045年（令和27年）には約34,500人に減少するが、高齢化率は2015年（平成27年）時点の約29%から、2045年（令和27年）には約40%まで上昇する。

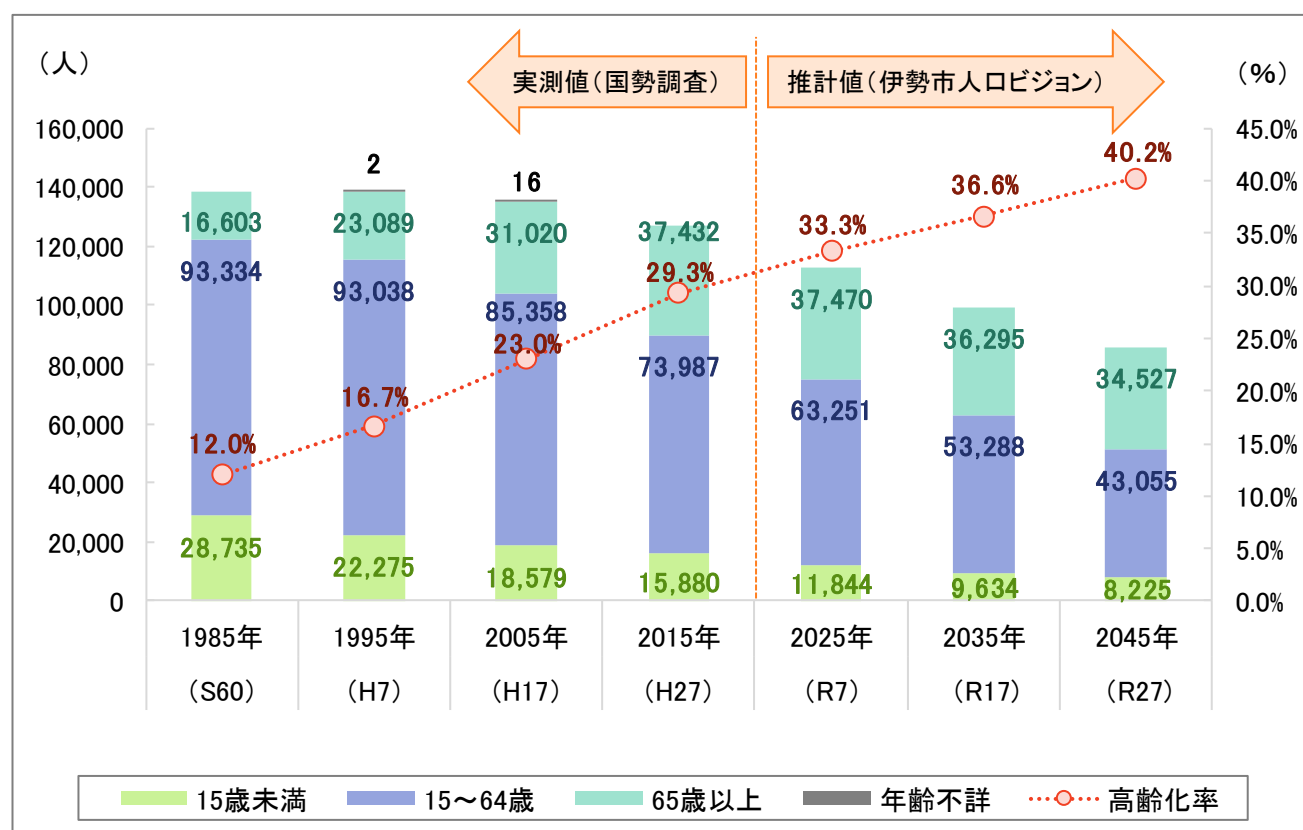


図 年齢別人口と高齢化率

資料：国勢調査（1985年～2015年）

資料：伊勢市人口ビジョン（平成25年推計値）（2015年～）

2-3. 地区別人口

本市の地区別人口は、伊勢市駅および宇治山田駅北側に位置する有絹地区と、宮川駅および小俣駅が最寄り駅となる小俣地区で人口が最も多く、10,000人以上となっており、次いで、御菌地区および二見浦地区で8,000人以上～10,000人未満となっている。一方、人口の少ない地区は東大淀地区、豊浜東地区、佐八地区、上野地区で2,000人未満となっている。

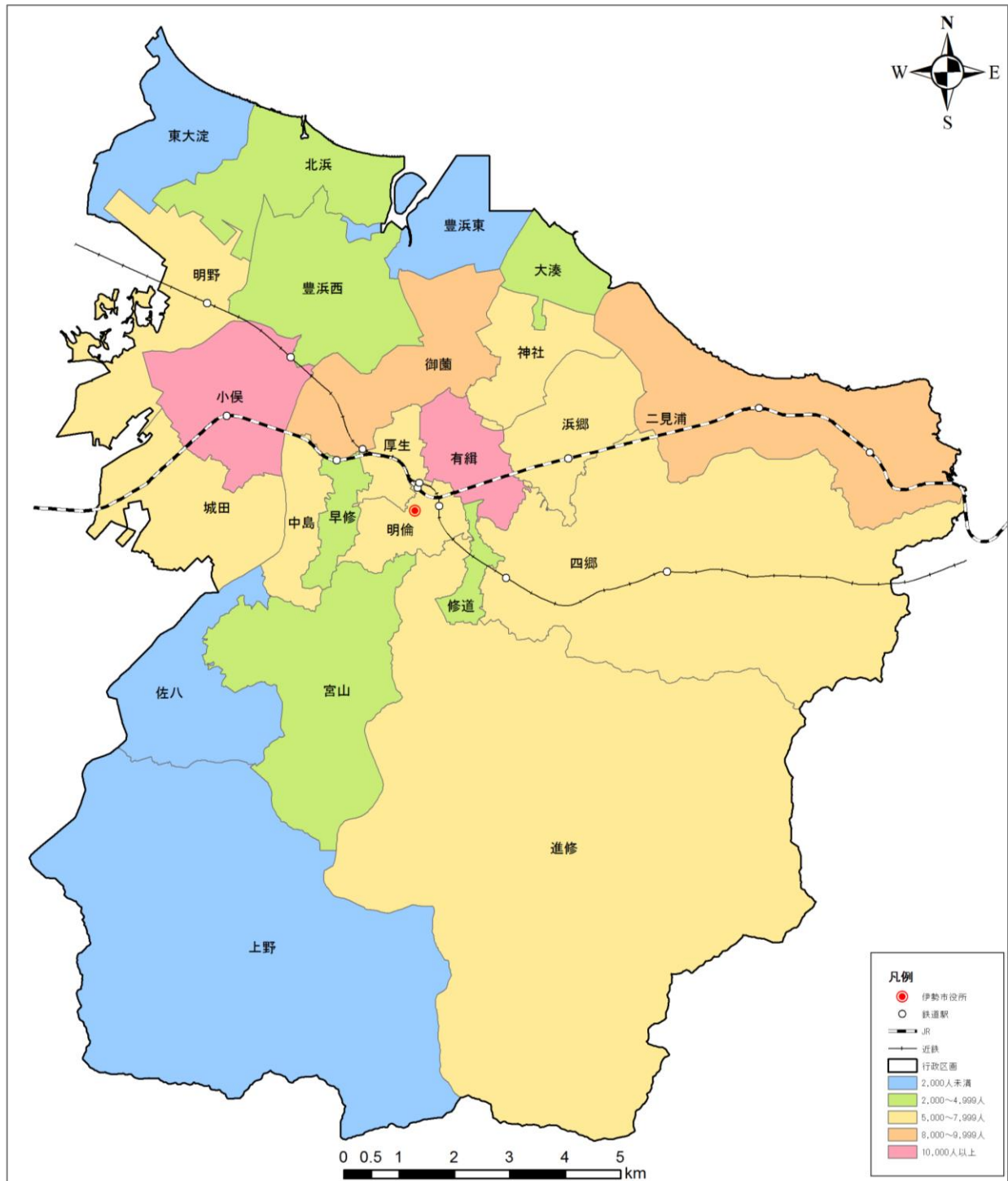


図 伊勢市の地区別人口

資料：国勢調査（2015年）

2-4. 地区別高齢化率

本市の地区別高齢化率は、山田上り駅の南に位置する早修地区で最も多く40%となっており、次いで、早修地区周辺の中島地区、明倫地区、厚生地区で35%以上40%未満となっている。一方、高齢化率の低い地区は宮山地区、明野地区、神社地区、浜郷地区、御園地区で25%未満となっている。

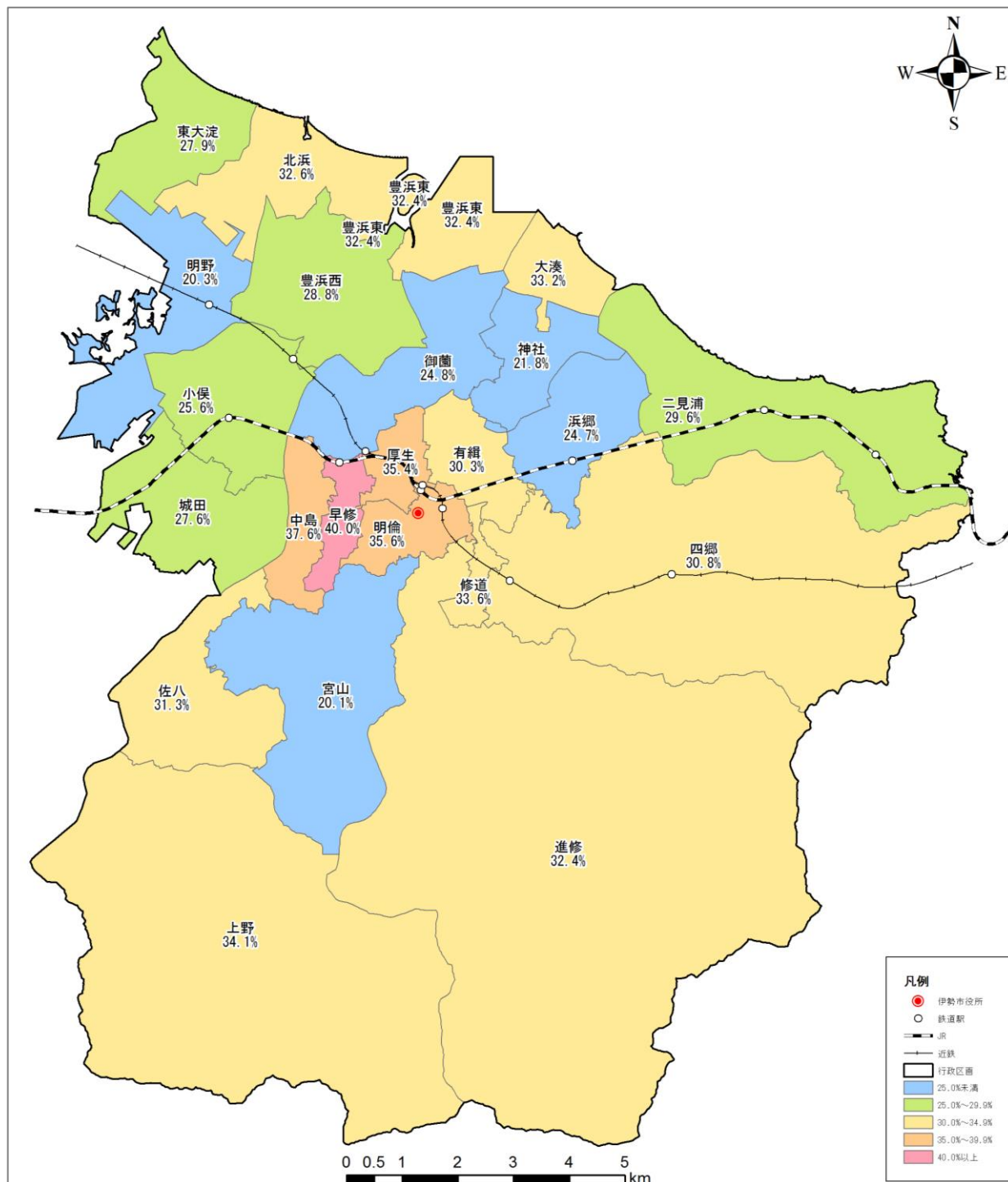


図 伊勢市の地区別人口

資料：国勢調査（2015年）

2-5. 障がい者種別手帳所持者の推移

本市の障がい者種別手帳の所持者は年々増加傾向にあり、2018年（平成30年）時点の所持者は約7,000人である。また、障がい者種別に見ると、身体障害者手帳の所持者は2013年（平成25年）以降減少傾向にあり、2018年（平成30年）には約5,100人である。療育手帳および精神障害者保健福祉手帳の所持者は2012年（平成24年）以降増加傾向にあり、2018年（平成30年）で療育手帳の所持者が約950人、精神障害者保健福祉手帳の所持者が約910人である。

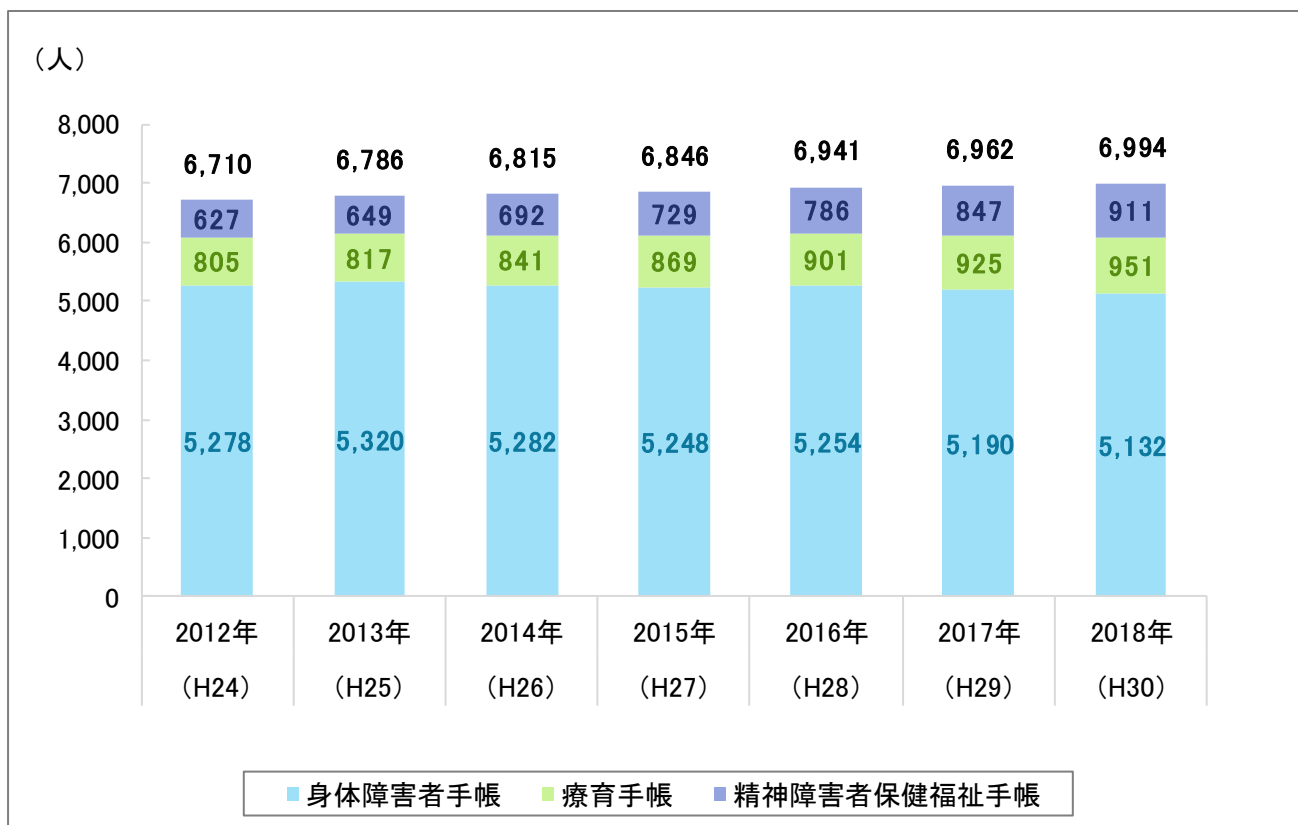


図 障がい者種別手帳所持者数

資料：伊勢市

2-6. 等級別身体障害者手帳所持者の推移

等級別身体障害者手帳所持者の推移は、1級が2012年（平成24年）に約1,600人であったのに対して、2018年（平成30年）には約1,700人に増加している。その他の等級では、4級が約1,200人、5級が約250人と大きな変化はなく、2級、3級、6級は2012年（平成24年）と比較して、2018年（平成30年）の所持者数は減少傾向にある。

また、等級別に見ると1級が最も多く、次いで4級と3級が多くなっている。

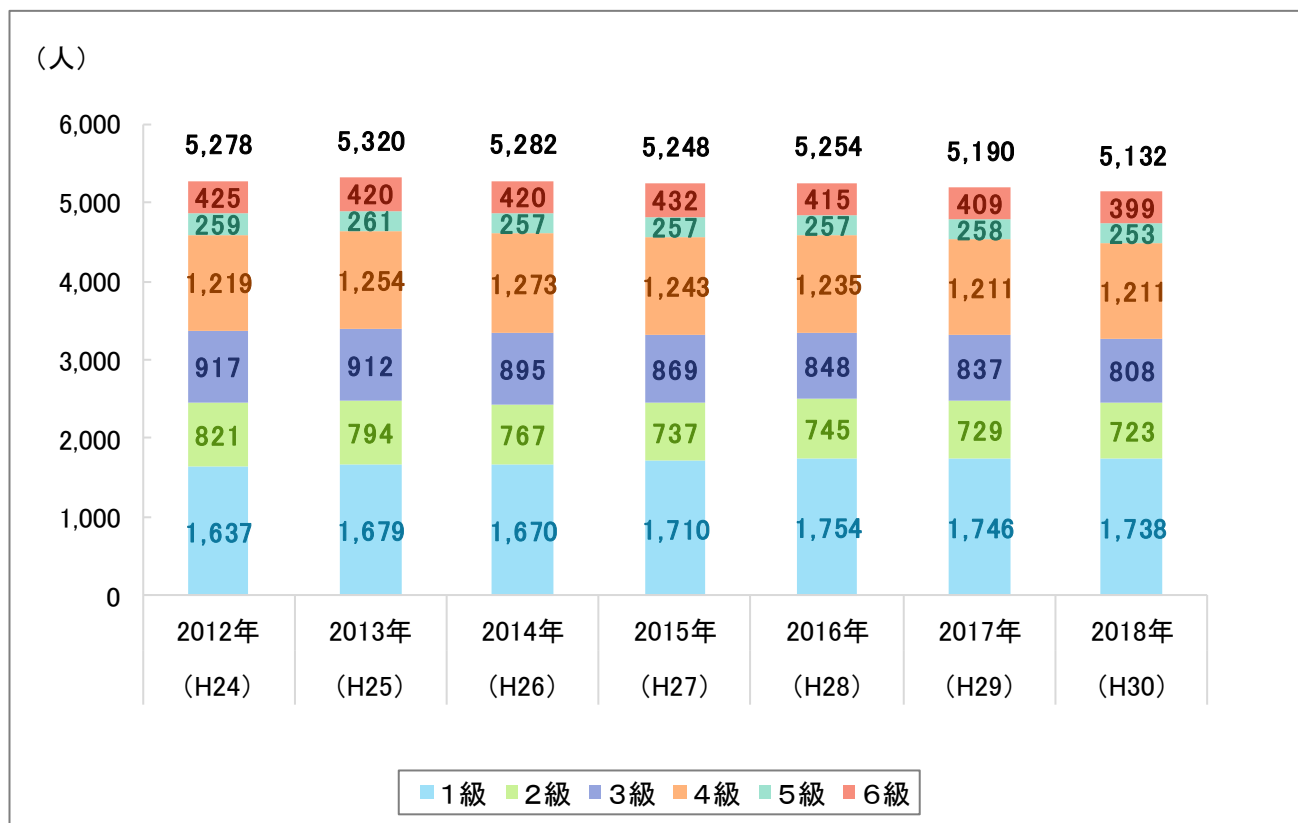


図 等級別身体障害者手帳所持者数

資料：伊勢市

2-7. 部位別身体障害者手帳所持者の推移

本市の部位別身体障害者手帳所持者の推移は、内部障がい者が2012年（平成24年）に約1,500人であったのに対し、2018年（平成30年）には約1,600人に増加している。肢体障がいは2012年（平成24年）と比較して約2,800人から約2,500人に減少しており、視覚障がいは2012年（平成24年）と比較して約340人から約320人に減少している。また、聴覚障がいは2012年（平成24年）と比較して約650人から約610人に減少しており、言語障がいは2012年（平成24年）と比較して約70人から約60人に減少している。

また、部位別に見ると肢体障がい者が最も多く、次いで内部障がい者が多くなっている。

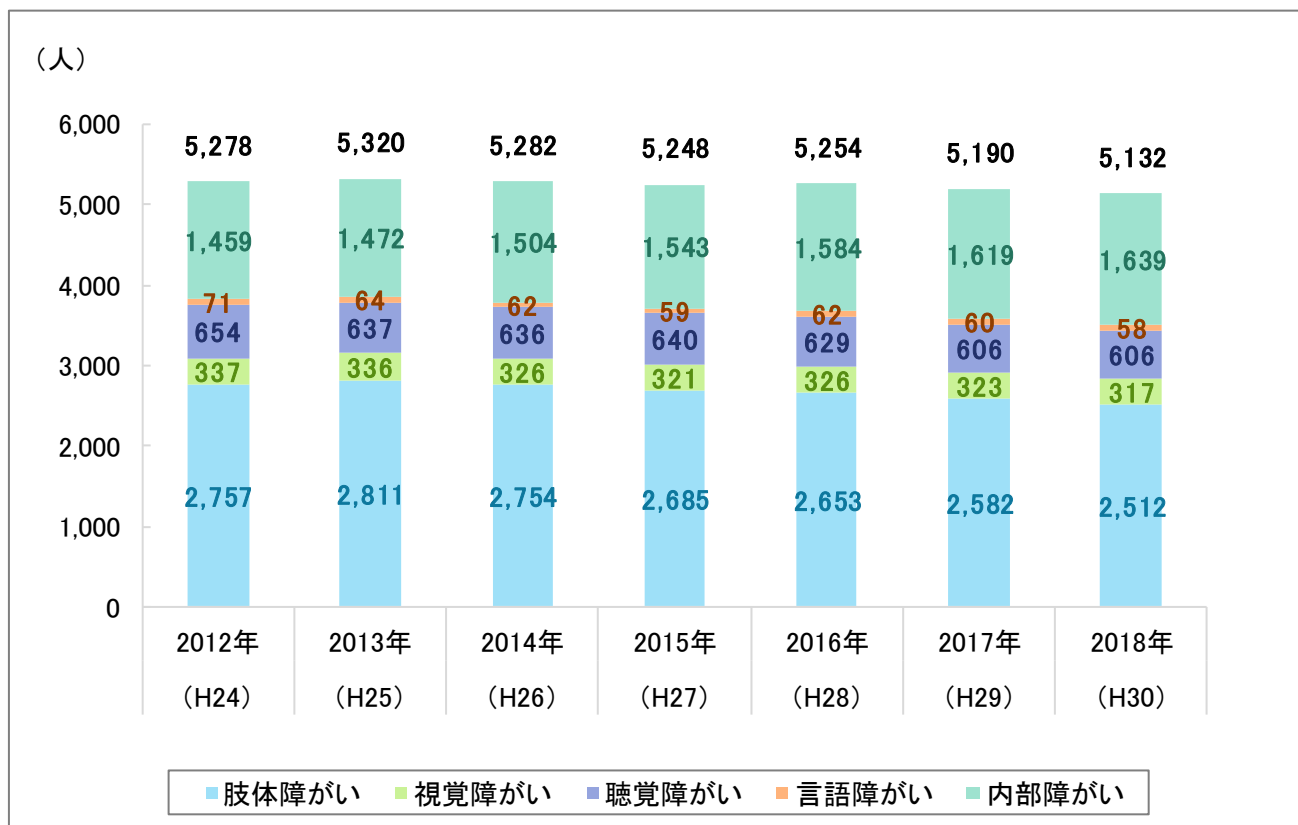


図 部位別身体障害者手帳所持者数

資料：伊勢市

3. 都市施設の立地状況

3-1. 生活関連施設候補の状況

伊勢市バリアフリーマスタープラン（以下「本マスタープラン」という。）においては、基本構想の内容を考慮しつつ、下記に該当するものを生活関連施設候補とした。生活関連施設候補については、2016年度（平成28年度）策定の伊勢市交通バリアフリー基本構想と整合を図りつつ、市内の高齢者・障がい者等だけでなく、広く来訪者にも配慮するものとして生活関連施設を設定した。

表 生活関連施設候補の考え方

施設の分類	基本的な考え方
旅客施設	伊勢市の移動等円滑化促進地区選定の考え方に基づき抽出された地区を形成する中心的な鉄道駅
官公庁	市関連施設（市役所等）、県事務所、税務署、法務局、裁判所、警察署など
金融機関等	銀行、郵便局など
医療施設	病院又は診療所で、用途面積が2,000㎡以上のもの
商業施設	娯楽施設（劇場、観覧場、映画館、演芸場など）、展示施設、物品販売施設、飲食施設、サービス施設、宿泊施設（ホテル・旅館など）などで、用途面積が2,000㎡以上のもの
子育て支援施設	保育所、認定こども園など
教育文化施設	スポーツ施設（体育館、プールなどで、一般開放されているもの）、美術館、博物館、図書館など
社会福祉施設	老人福祉センター、身体障害者福祉センターなど、公共施設であるもの
観光施設	市内の観光施設の中でも市内・市外から多くの利用者が見込まれる施設（観光統計記載の施設）
都市公園	都市公園のうち、街区公園を除くもの（地区住民だけでなく、多くの市民や市外からの来訪者が利用する公園）
路外駐車場	バリアフリー法に基づく特定路外駐車場（500㎡以上かつ料金を徴収している路外駐車場のうち、道路付属物・公園施設・建築物・建築物に付随しているものを除く）。

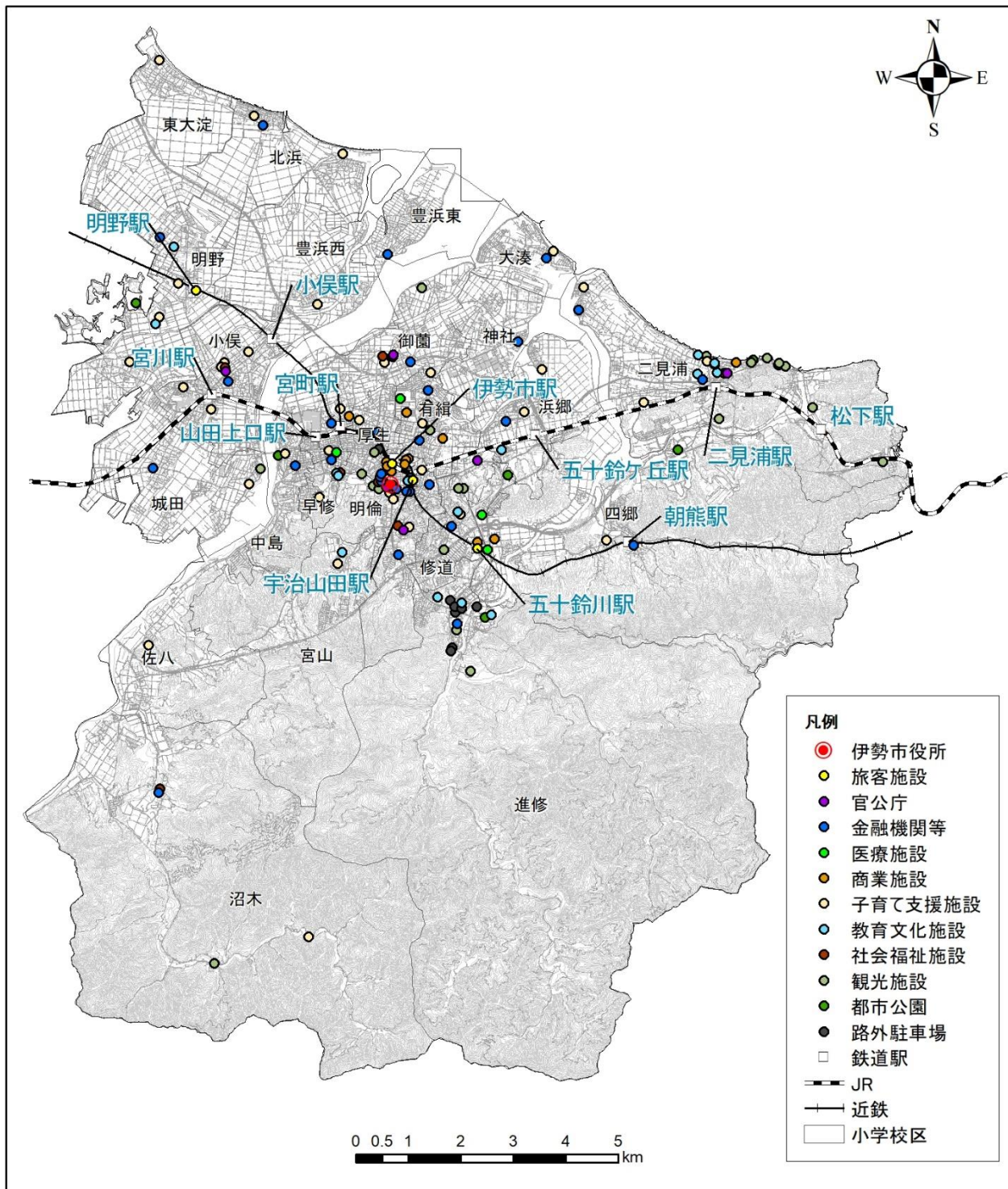


図 生活関連施設候補の立地状況（市全体）

3-2. 駅別立地状況

本市における駅から徒歩圏内（駅起点に半径 1.4km の円内※）の生活関連施設候補の立地状況は、中心市街地である伊勢市駅および宇治山田駅周辺に生活関連施設候補が多く集積している。その他には宮町駅や山田上り駅など、伊勢市駅および宇治山田駅に隣接する駅の周辺や二見浦駅周辺などに生活関連施設候補が多く集積している。

表 各鉄道駅周辺の生活関連施設候補数

	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上り駅	松下駅	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
総数	6	8	21	19	3	59	54	7	30	7	2
旅客施設	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0
官公庁	1	1	1	0	0	6	7	0	1	1	0
金融機関等	1	1	2	4	0	13	13	1	5	1	1
医療施設	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0
商業施設	0	0	3	1	0	9	8	0	5	0	0
教育文化施設	1	0	4	2	0	5	4	2	4	0	0
社会福祉施設	0	1	1	2	0	3	2	0	2	1	0
子育て支援施設	2	5	1	5	0	8	6	2	4	4	1
観光施設	0	0	4	2	3	5	6	0	3	0	0
路外駐車場	0	0	2	1	0	6	6	0	2	0	0
都市公園	1	0	3	1	0	0	0	1	1	0	0

※国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」において、徒歩圏内の地域として、地区全体の面積が概ね 400ha 未満の地区とされている。2km×2km の正方形に外接する円の半径は 1.4km であることから、半径 1.4km の円を促進地区検討段階での徒歩圏と設定し、2km×2km の正方形の内接する円で示される範囲（半径 1km の円内）の周辺地域における施設の立地状況についても分析を行った。（なお、促進地区設定の際は、半径 800m の円内を徒歩圏として設定している。その考え方については、6-1 ページ参照。）

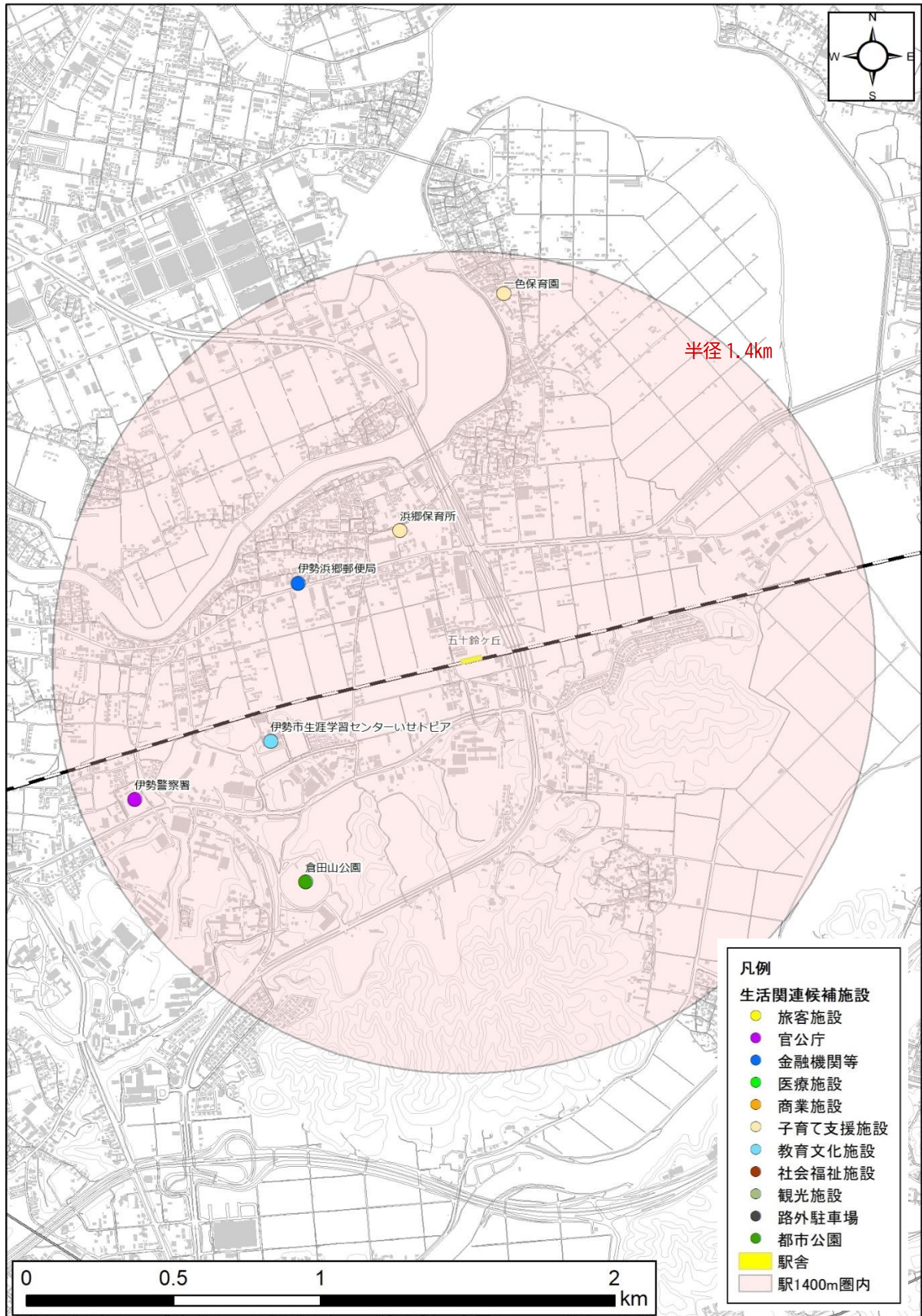


図 五十鈴ヶ丘駅周辺の生活関連施設候補

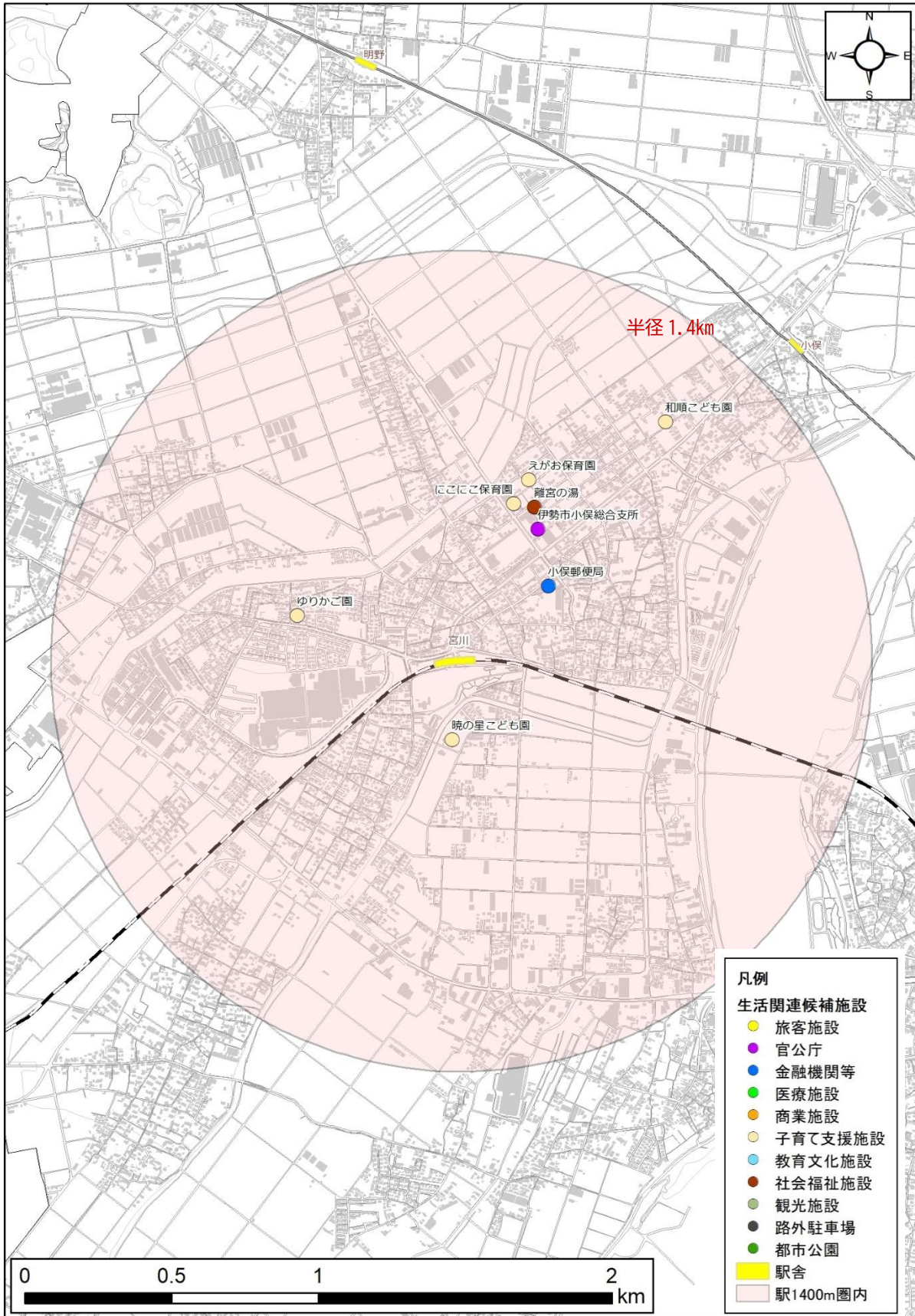


図 宮川駅周辺の生活関連施設候補

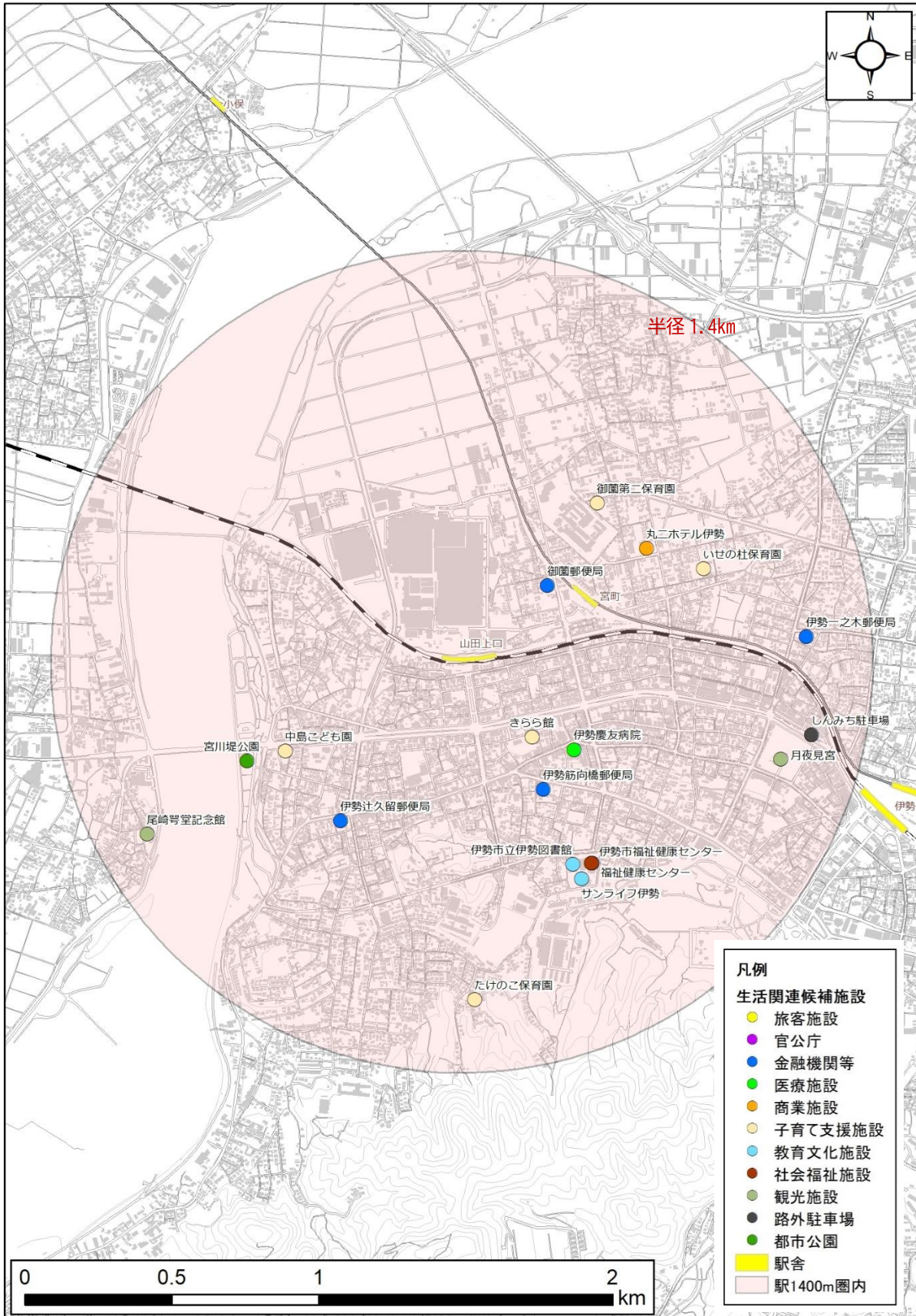


図 山田上口駅周辺の生活関連施設候補

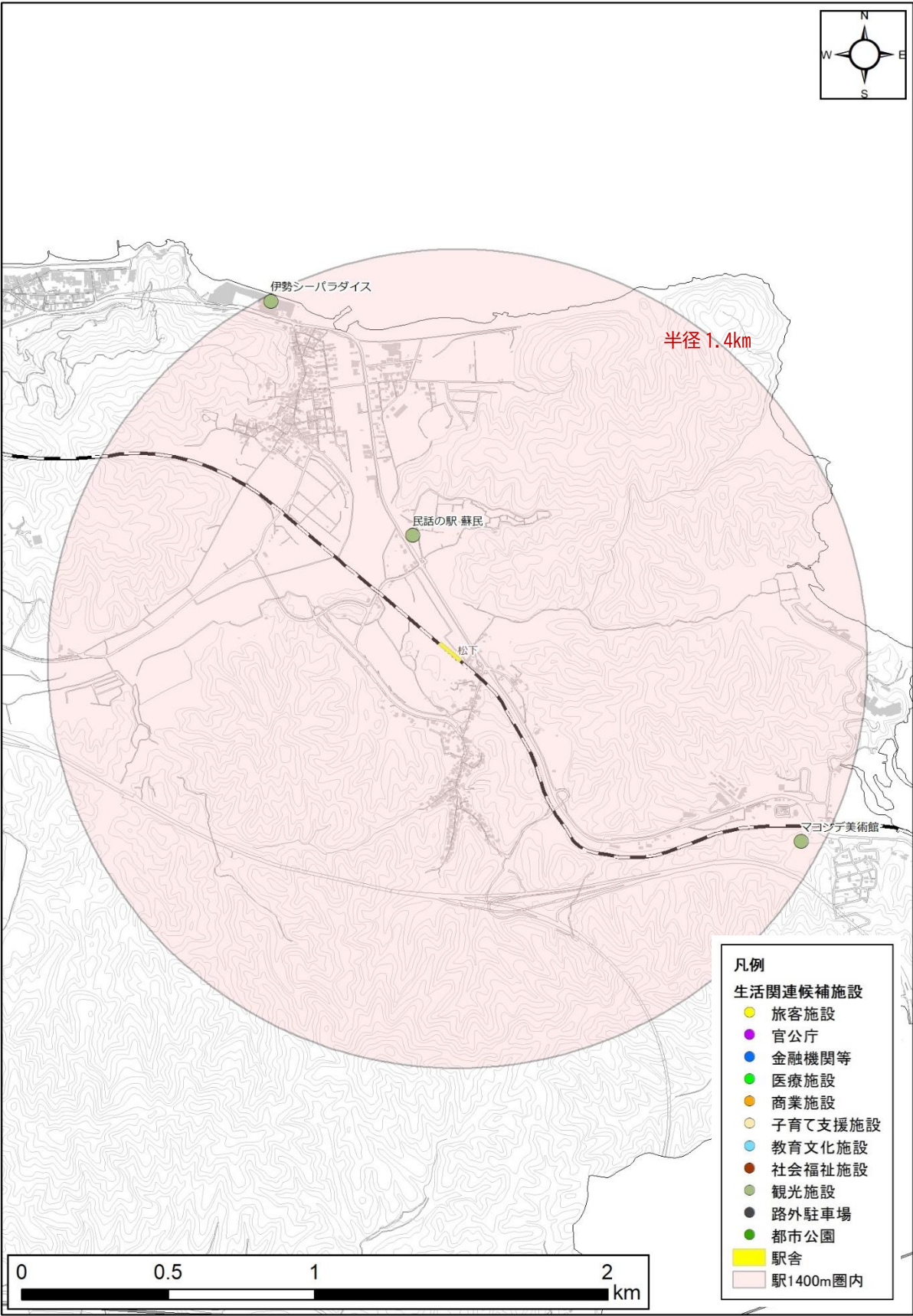


図 松下駅周辺の生活関連施設候補

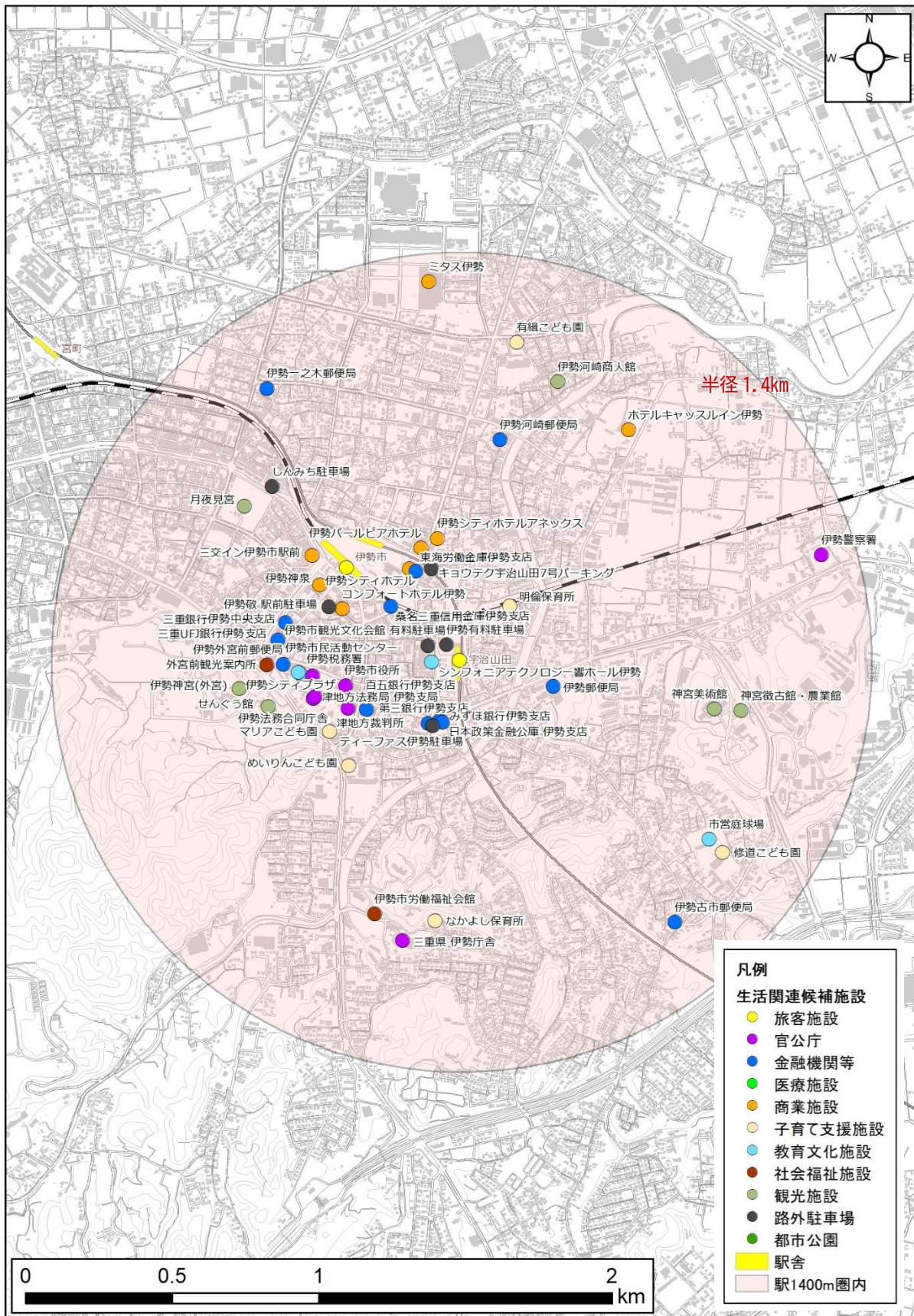


図 宇治山田駅周辺の生活関連施設候補

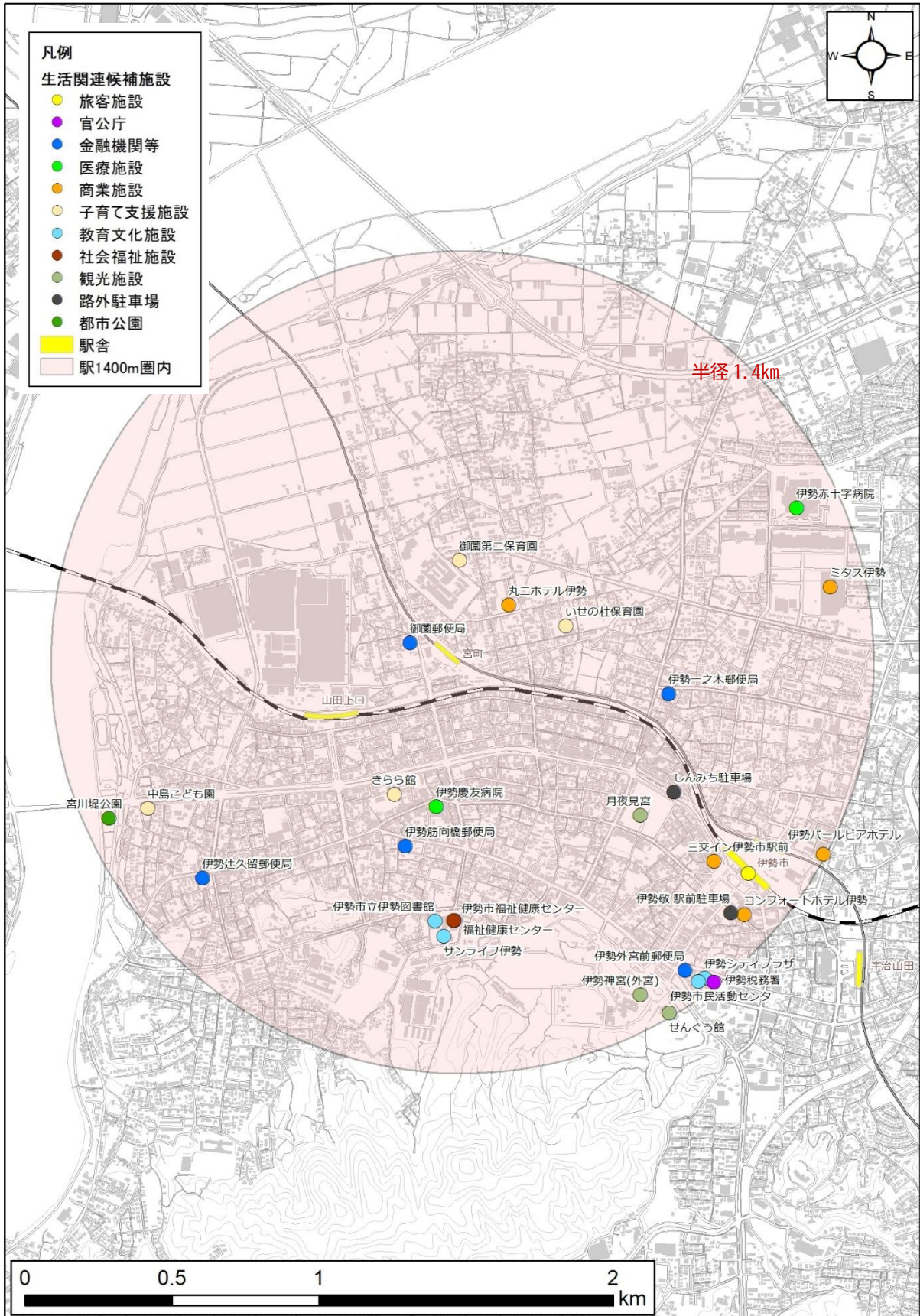


図 宮町駅周辺の生活関連施設候補

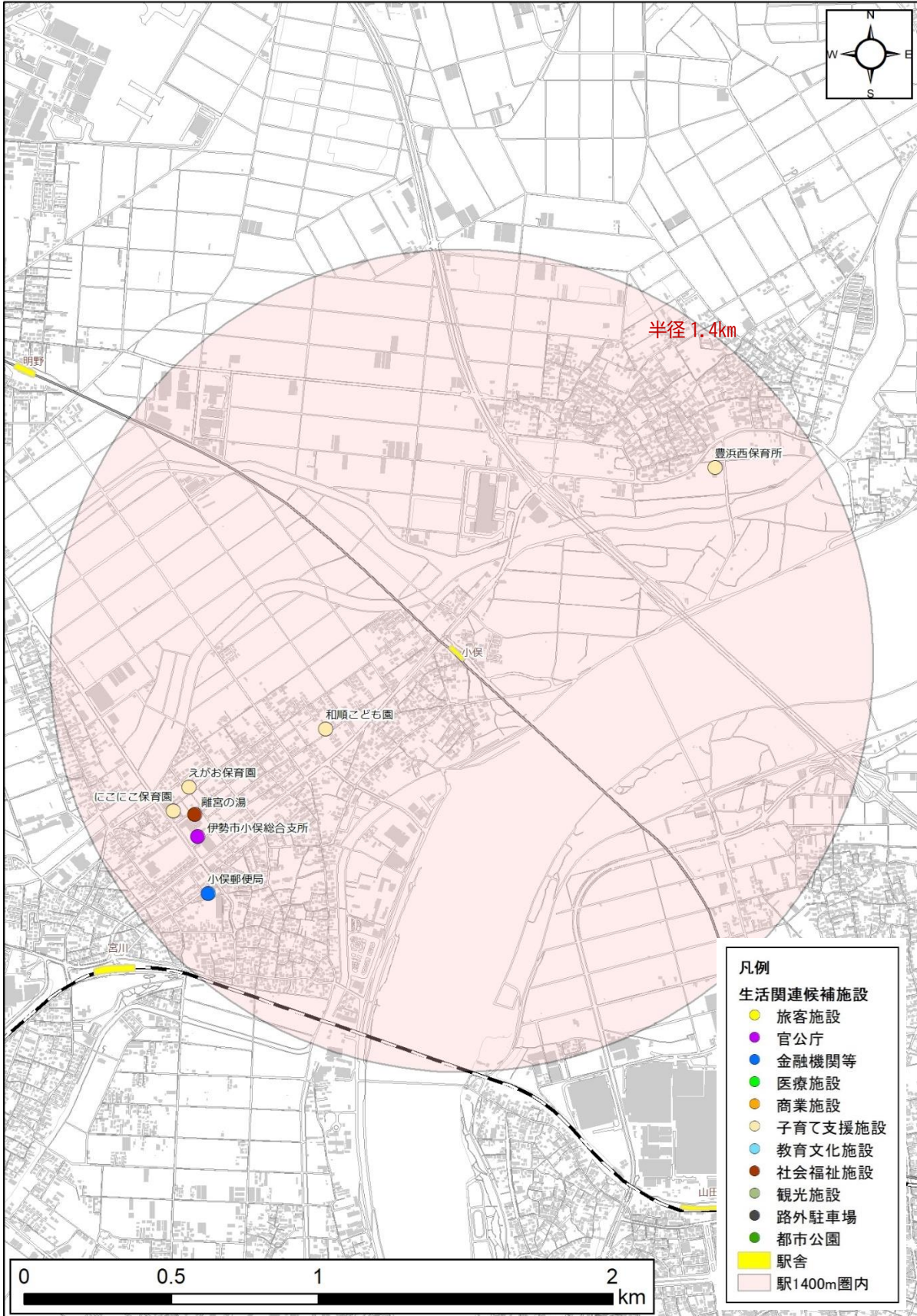


図 小俣駅周辺の生活関連施設候補

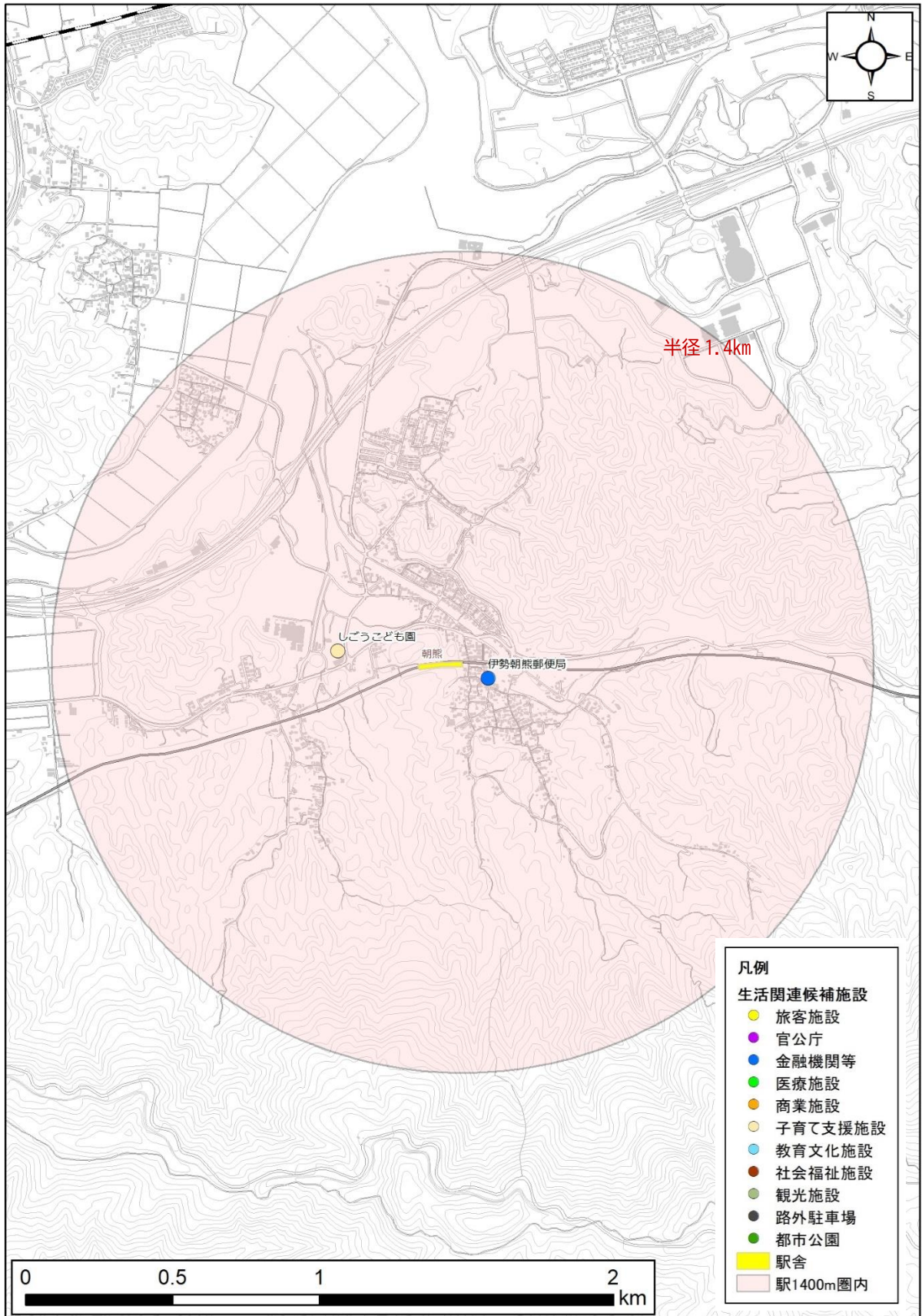


図 朝熊駅周辺の生活関連施設候補

4. 観光動態

4-1. 市内観光客数の推移

本市の観光客数は2005年（平成17年）の約1,000万人から増加傾向にあり、式年遷宮のあった2013年（平成25年）と、その次年の2014年（平成26年）で2,000万人を上回っている。それ以降も1,700万人以上で推移しており、2017年（平成29年）時点の観光客数は約1,900万人である。

また、神宮（外宮・内宮）の参拝者はおおむね800万人以上で推移しており、式年遷宮のあった2013年（平成25年）と、その次年の2014年（平成26年）は1,000万人を超えている。神宮の車いす利用台数は2010年（平成22年）から微増傾向にあり、2018年（平成30年）は約17,000台が利用されている。

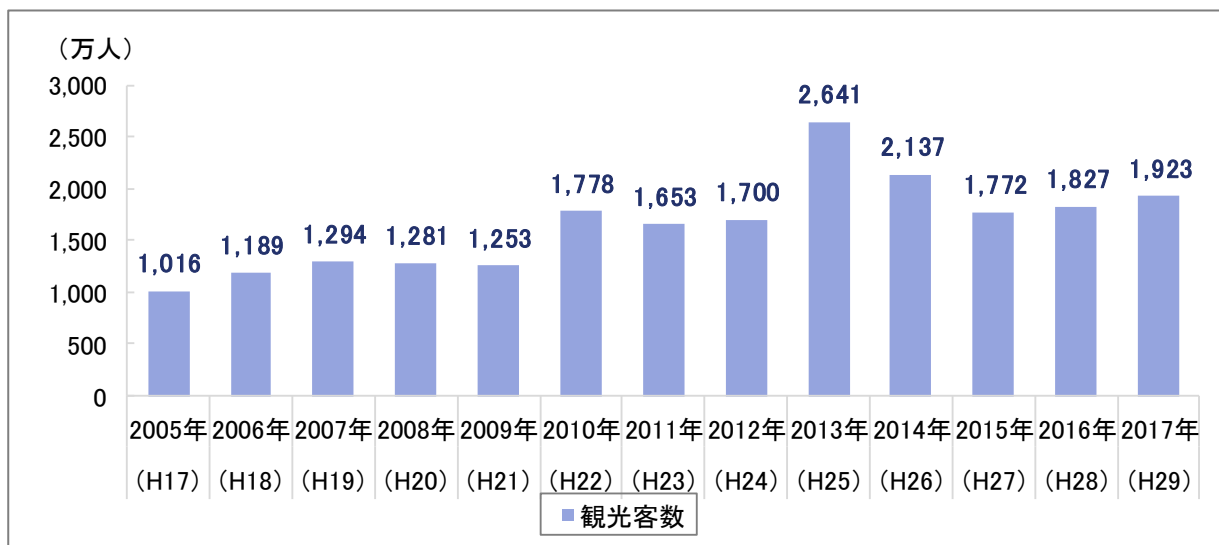


図 市内観光客数の推移

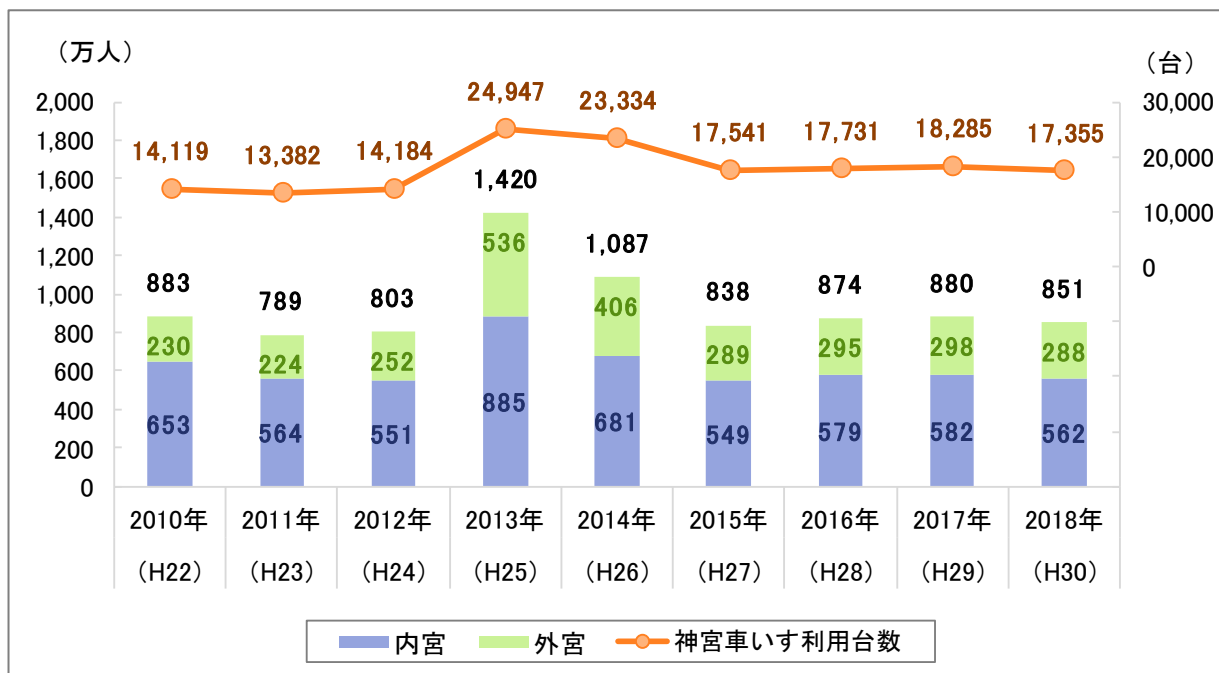


図 神宮参拝者数の推移

資料：伊勢市観光統計

4-2. 宿泊容量

本市の宿泊容量は官公庁や神宮（外宮）の最寄り駅である伊勢市駅（JR・近鉄）で200室以上の宿泊容量を有しているエリアが多く、次いで二見興玉神社や夫婦岩など主要な観光地の最寄り駅である二見浦駅周辺において、宿泊容量の大きいエリアがある。

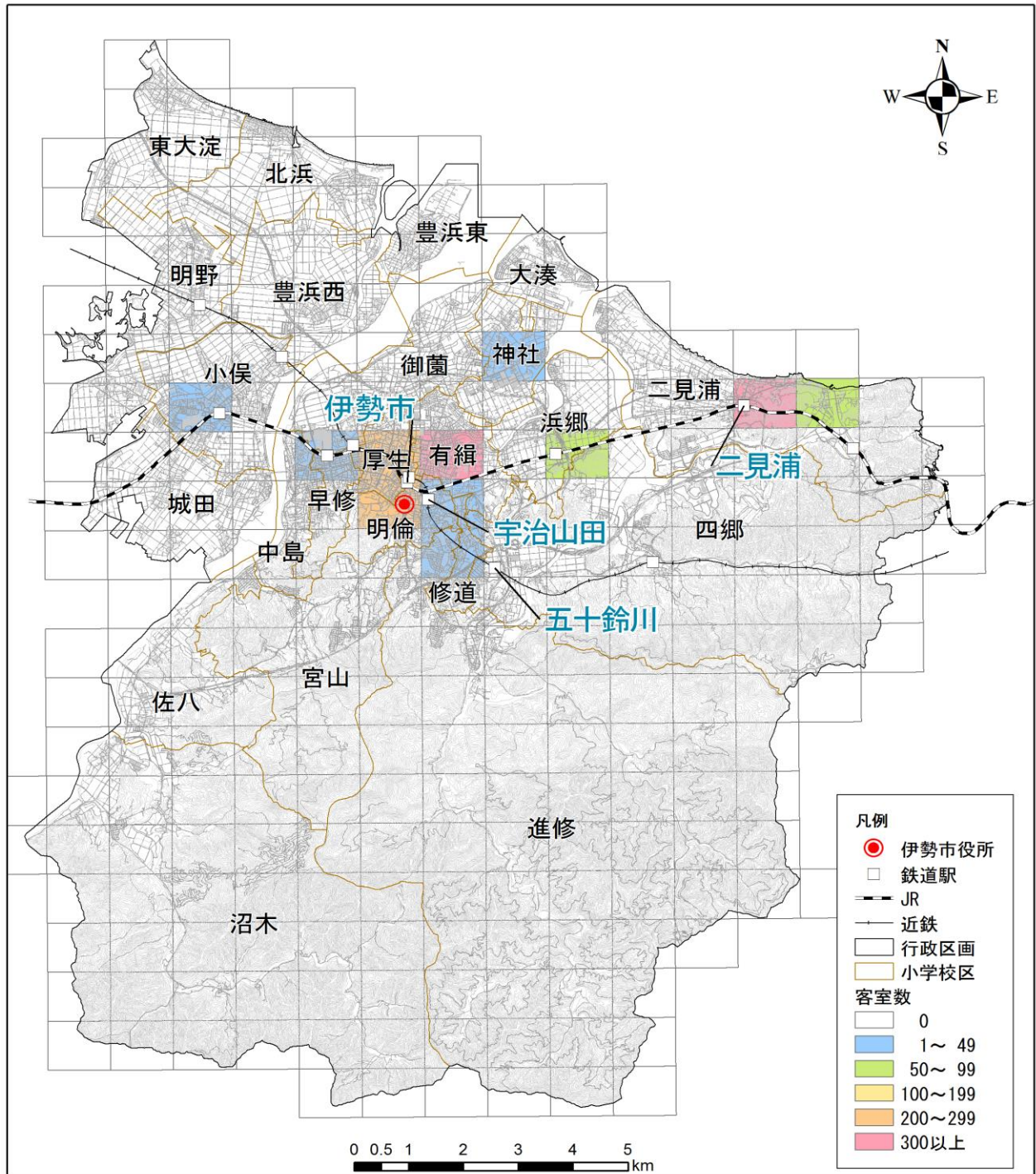


図 ブロック（1km×1km）の宿泊容量

資料：国土数値情報（平成22年）

4-3. 主要施設の観光客入込数

本市の主要観光施設の観光客入込数は神宮（外宮・内宮）およびおかげ横丁で最も多く、外宮は約290万人、内宮やおかげ横丁では約560万人が訪れている。また、この他の主要な観光地として、二見浦駅周辺があり、二見興玉神社に約200万人、伊勢夫婦岩めもと横丁に約60万人の観光客が訪れている。

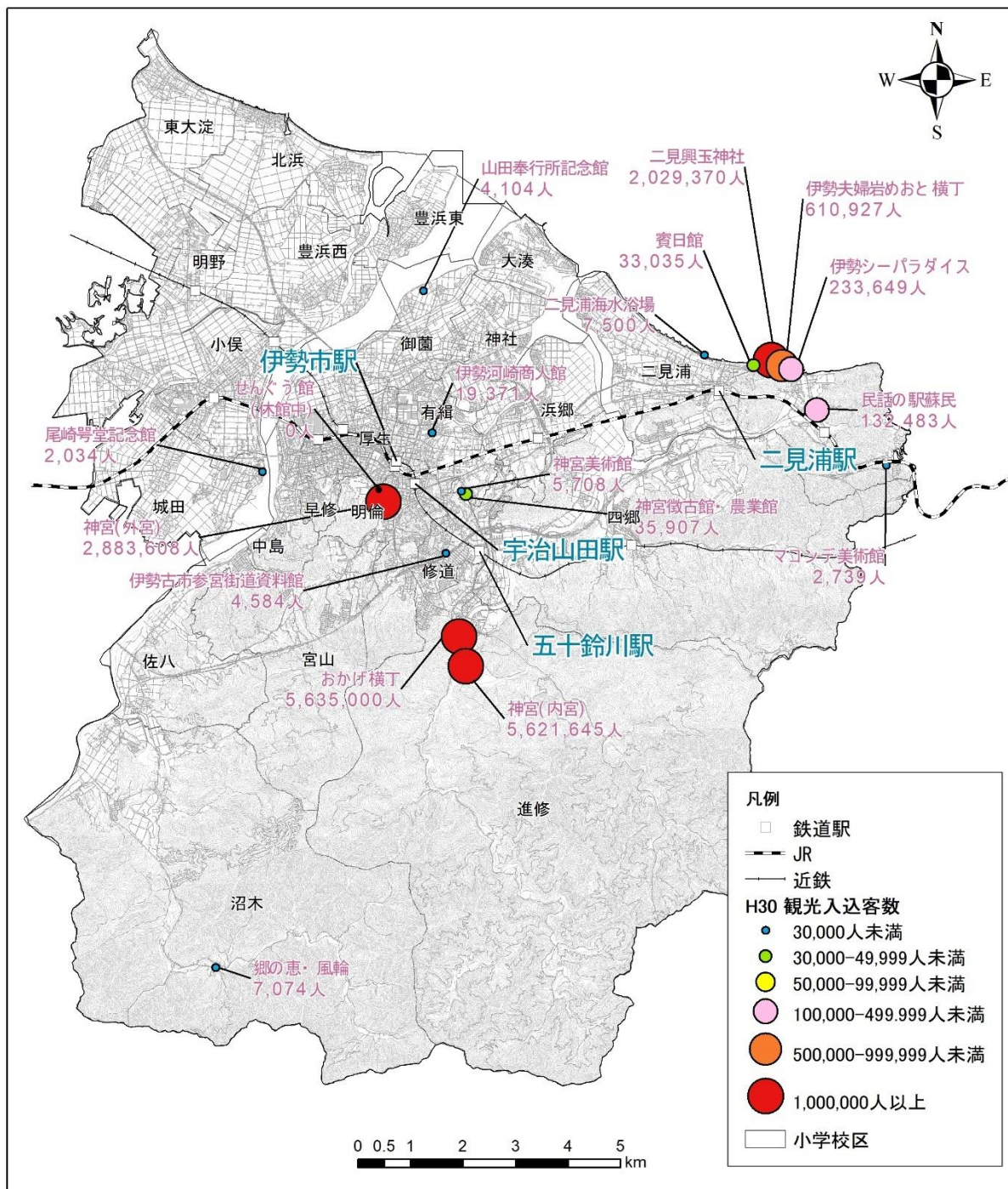


図 主要観光施設の観光客入込数

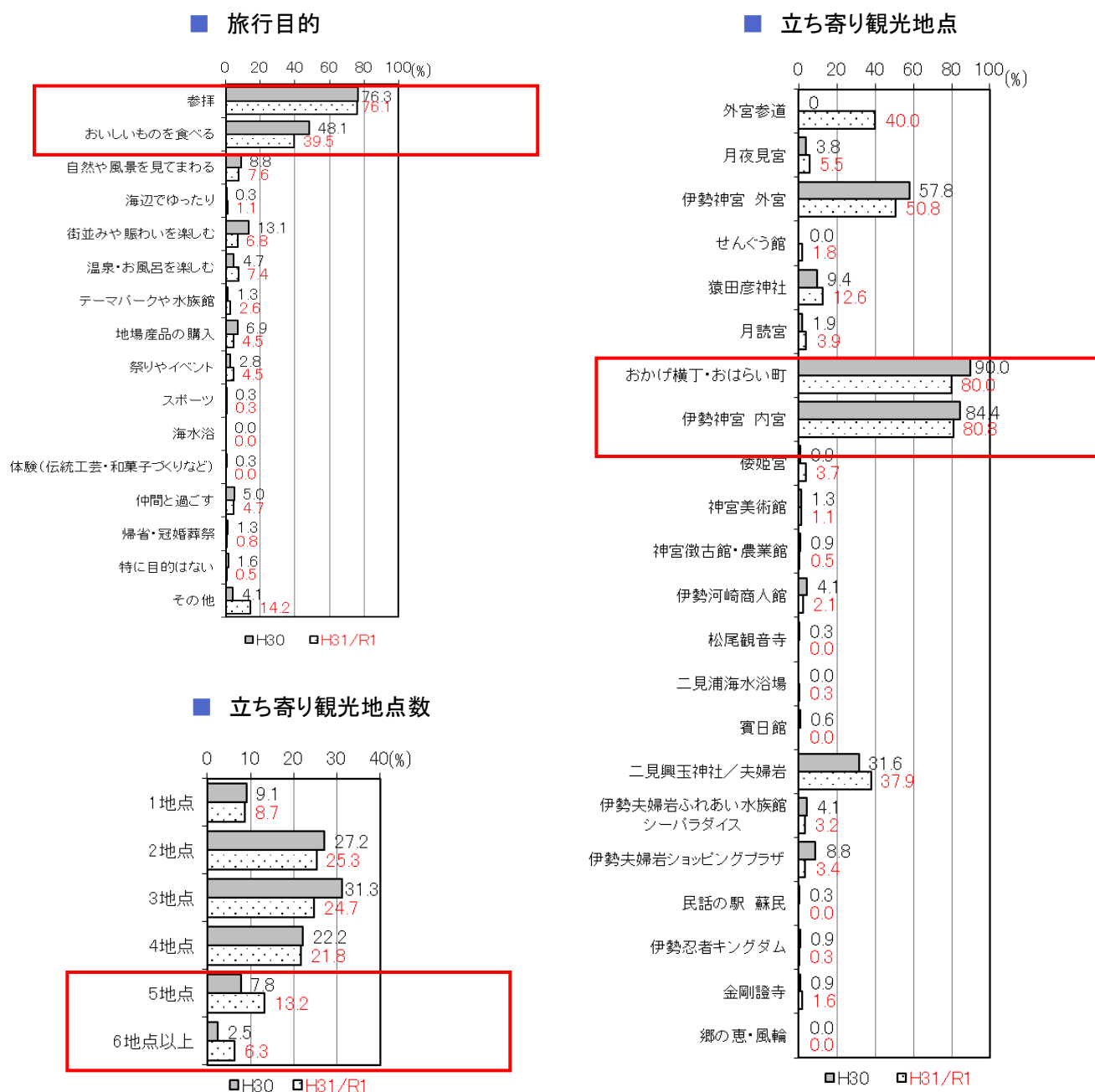
資料：伊勢市観光統計（平成30年）

4-4. 観光客実態調査

(1) 観光地目的

旅行目的については、「参拝」が76.1%で前年と同様最も高く、次いで「おいしいものを食べる」が39.5%となっている。立ち寄り観光地点については、「伊勢神宮 内宮」が80.8%と最も高くなっているが、前年に比べ3.6ポイント減少している。「おかげ横丁・おはらい町」については、80.0%と、前年に比べ10.0ポイント減少している一方で、「二見興玉神社／夫婦岩」は37.9%と、前年に比べて6.3ポイント増加している。

また、立ち寄り観光地点数は、「5地点以上」（「5地点」「6地点以上の合計」）が19.5%と、前年に比べ9.2ポイント増加している。



資料：観光実態調査

※平成31年度調査では立ち寄り観光地点の選択肢に「外宮参道」を追加した

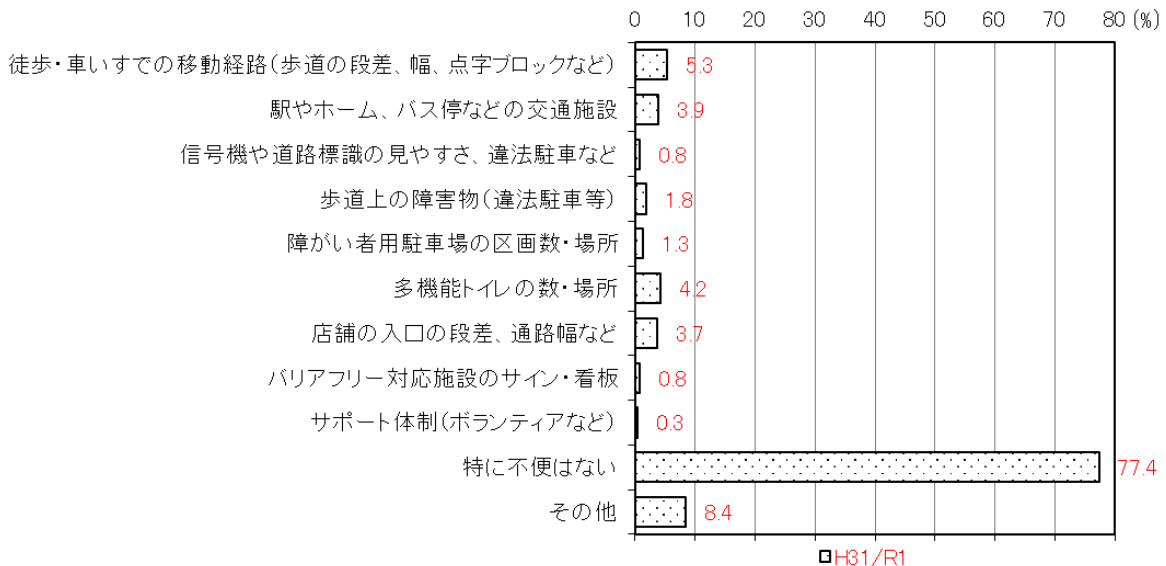
(2) バリアフリーについて

「現在訪れている観光地周辺のバリアフリーについて不便だと感じるところ」については、「特に不便はない」が77.4%（294人）で最も高く、次いで「徒歩・車いすでの移動経路（歩道の段差、幅、視覚障害者誘導用ブロックなど）」が5.3%（20人）、「多機能トイレの数・場所」が4.2%（16人）と続いている。

また、本市の観光バリアフリー等に関する取り組みの認知度について、「該当なし」が73.7%（280人）で最も高く、次いで「手荷物預かり・配送【有料】」が12.6%（48人）、「車いすのレンタル」が12.1%（46人）となっている。

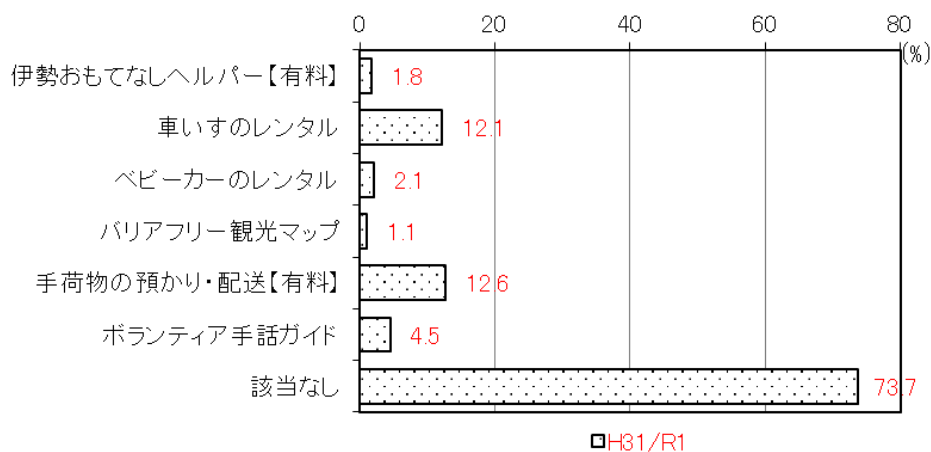
■ 現在訪れている観光地周辺のバリアフリーについて不便と感じるところはあるか(問 12、複数回答)

項目	実数(人)	構成比(%)
	H31/R1	H31/R1
1 徒歩・車いすでの移動経路(歩道の段差、幅、点字ブロックなど)	20	5.3
2 駅やホーム、バス停などの交通施設	15	3.9
3 信号機や道路標識の見やすさ、違法駐車など	3	0.8
4 歩道上の障害物(違法駐車等)	7	1.8
5 障がい者用駐車場の区画数・場所	5	1.3
6 多機能トイレの数・場所	16	4.2
7 店舗の入口の段差、通路幅など	14	3.7
8 バリアフリー対応施設のサイン・看板	3	0.8
9 サポート体制(ボランティアなど)	1	0.3
10 特に不便はない	294	77.4
11 その他	32	8.4
合計	380	100.0



■ 伊勢市の観光バリアフリー等について知っているサービスはあるか(問 12、複数回答)

項目		実数(人)	構成比(%)
		H31/R1	H31/R1
1	伊勢おもてなしヘルパー【有料】	7	1.8
2	車いすのレンタル	46	12.1
3	ベビーカーのレンタル	8	2.1
4	バリアフリー観光マップ	4	1.1
5	手荷物の預かり・配送【有料】	48	12.6
6	ボランティア手話ガイド	17	4.5
7	該当なし	280	73.7
合計		380	100.0



5. 公共交通

5-1. 鉄道・駅

(1) JR 線の年間乗客数の推移

JR 線の年間乗客数は伊勢市駅が最も多く、2018 年度（平成 30 年度）は約 449 千人となっており 2005 年度（平成 17 年度）以降増加傾向にある。次いで五十鈴ヶ丘駅、宮川駅、二見浦駅で約 100 千人となっており、五十鈴ヶ丘駅は 2005 年度（平成 17 年度）以降増加傾向にあるが、宮川駅はほぼ横ばい、二見浦駅は減少傾向となっている。

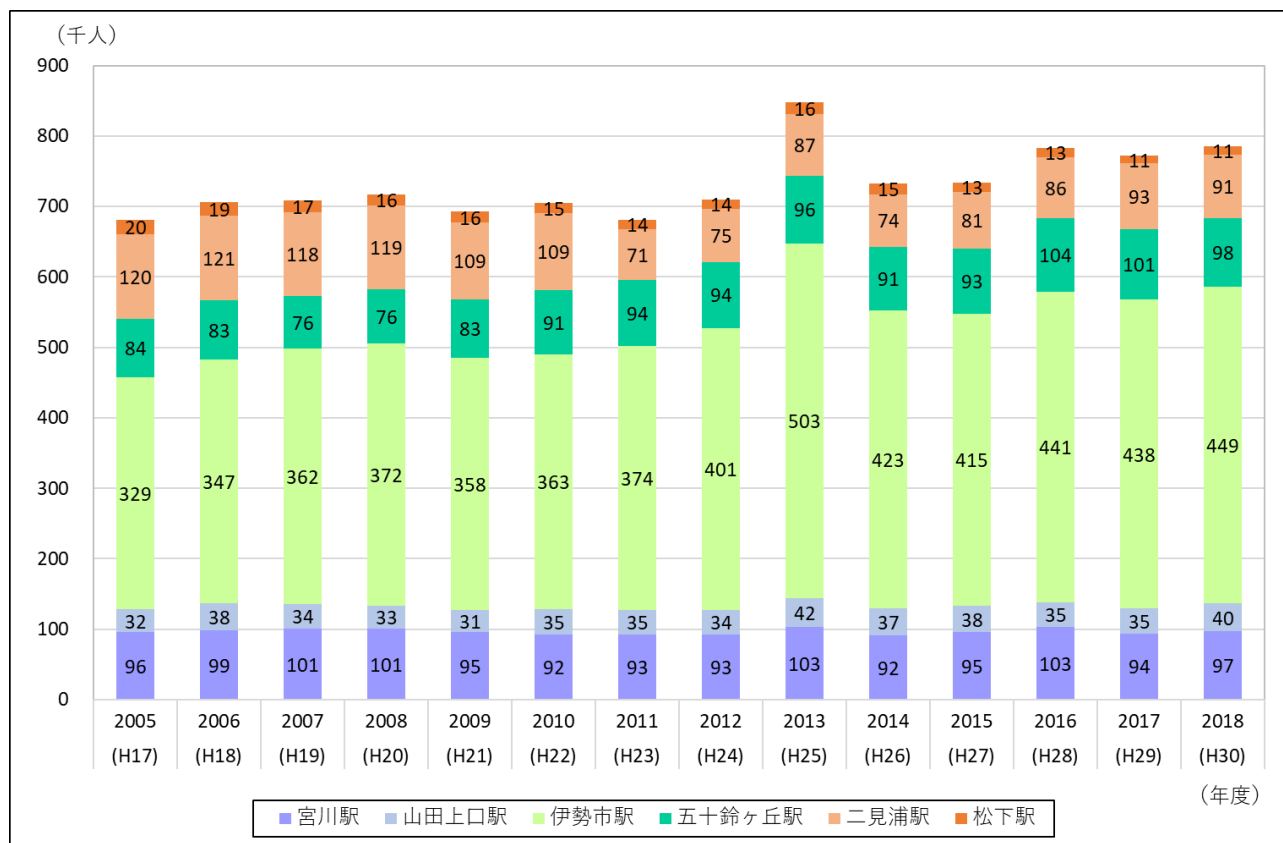


図 年間鉄道乗客数（JR）

資料：三重県統計書

(2) 近鉄線の年間乗客数の推移

近鉄線の年間乗客数は宇治山田駅が最も多く、2018年度（平成30年度）は約2,000千人で、式年遷宮のあった2013年度（平成25年度）の約2,450千人をピークにやや減少傾向にある。伊勢市駅は2015年度（平成27年度）の約1,530千人以降増加傾向にあり、2018年度（平成30年度）は約1,570千人である。この他、2018年度（平成30年度）は、五十鈴川駅は約670千人、明野駅は約430千人で、両駅とも前年度からやや減少している。

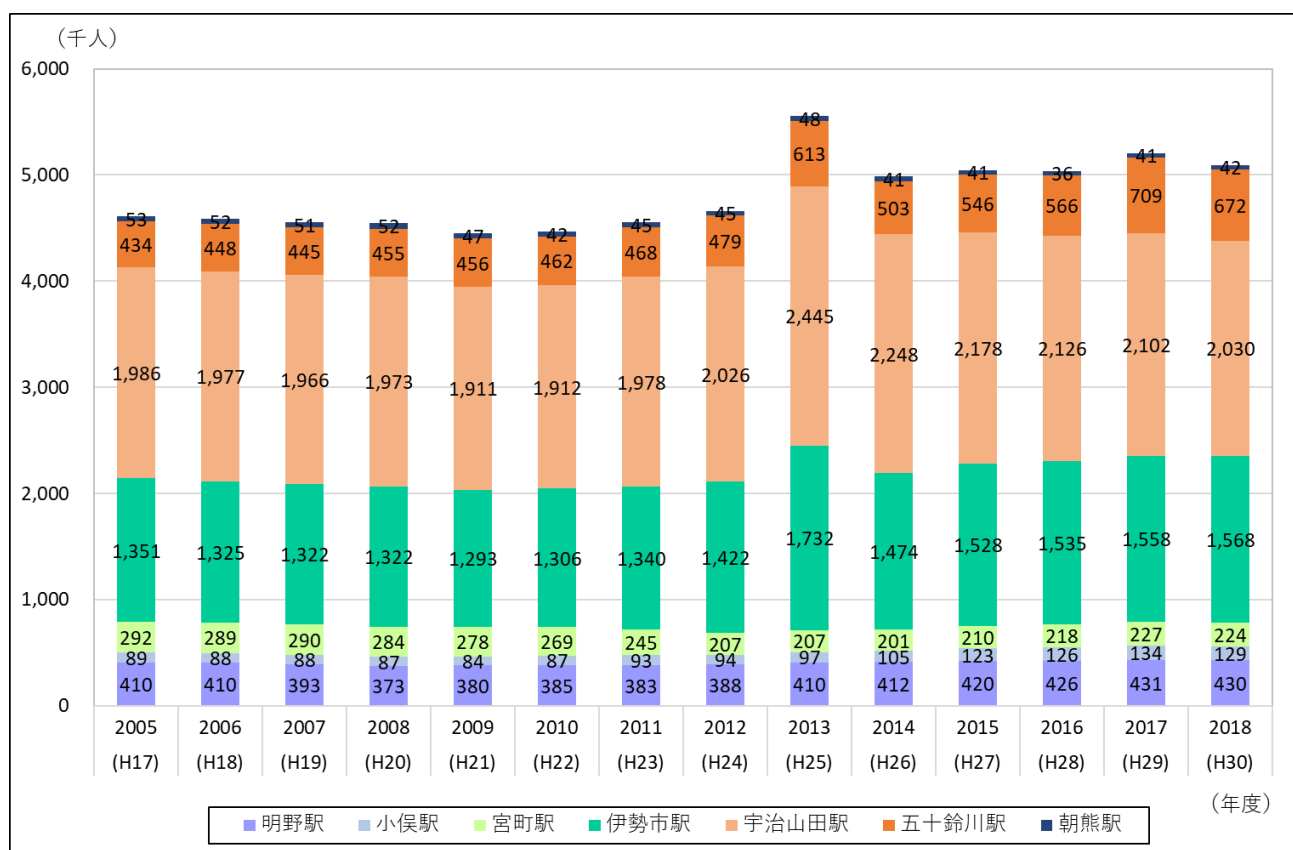


図 年間鉄道乗客数（近鉄）

資料：三重県統計書

(3) 市内各駅の1日あたり平均乗降客数

本市の鉄道駅の1日あたりの平均乗降客数は伊勢市駅（JR・近鉄）が最も多く、JR線で約2,500人/日、近鉄線で約7,700人/日が利用しており、1日あたりの平均乗降客数は合計で約11,000人/日である。次いで多い駅は、宇治山田駅（近鉄）で約8,600人/日となっている。

この他の駅では明野駅（近鉄）、五十鈴川駅（近鉄）で1日あたりの平均乗降客数が2,000人/日を超えている。

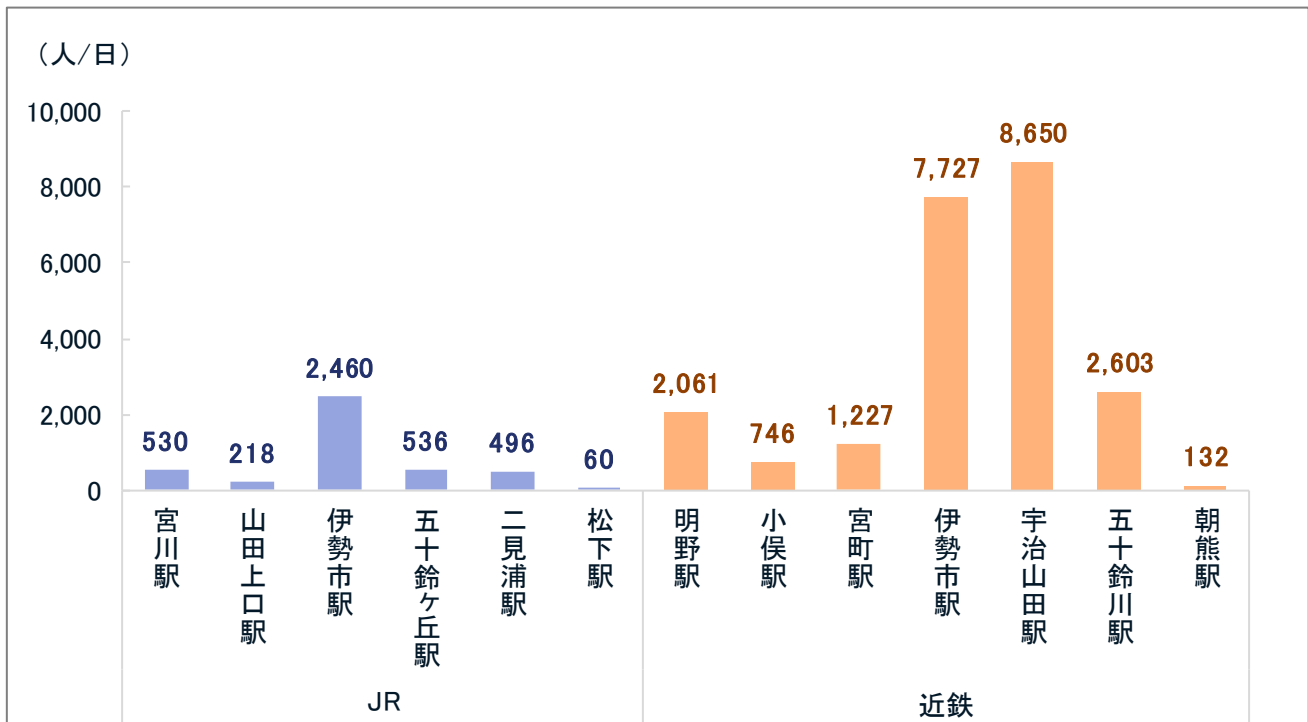


図 1日あたりの平均乗降客数

資料：JR 東海、近畿日本鉄道

JR：提供資料の1日平均乗客数を2倍して算出

近鉄：交通量調査（平成 30. 11. 13）

(4) 鉄道駅のバリアフリー状況

市内の各駅のバリアフリー対応状況として、伊勢市駅、宇治山田駅、五十鈴川駅、明野駅には駅員が常駐しているが、それ以外の駅は常駐していない状況である。また、車いすが利用可能な通路が整備されている駅は伊勢市駅、小俣駅、宮町駅、宇治山田駅、五十鈴川駅であり、その内、伊勢市駅、宇治山田駅、五十鈴川駅にはエレベーターが設置されている。

また構内の施設について、市内の全駅で視覚障害者誘導用ブロックが設置されており、その他、トイレの車いす対応や触知案内図は伊勢市駅、宇治山田駅、五十鈴川駅に設置されており、JR 伊勢市駅や五十鈴川駅には車いすでの利用が容易な券売機が設置されている。

路線		JR						近鉄						
駅名		宮川駅	山田上り口駅	伊勢市駅	五十鈴ヶ丘	二見浦駅	松下駅	明野駅	小俣駅	宮町駅	伊勢市駅	宇治山田駅	五十鈴川駅	朝熊駅
駅員の常駐		×	×	○	×	×	×	○	×	×	○	○	○	×
段差の 解消	車いす可 (道路～改札)			○				△	○	○	○	○	○	△
	エレベーター (改札～ホーム)			○				-	-	-	○	○	○	-
改札口	幅の広さ ※80cm以上の拡幅改札口を 1か所以上設置しているか												○	
視覚障害者誘導用ブロック		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トイレ	車いす対応			○				×	-	-	○	○	○	-
	音声案内								-	-				-
券売機	車いすでの利用が 容易な高さ・形状			○									○	
構内 案内	触知案内図			○				×	×	×	○	○	○	×

資料：JR 東海、近畿日本鉄道

※-：エレベーターおよびトイレの設置なし

○：対応

△：一部対応

×：未対応

空白：不明（非公開）

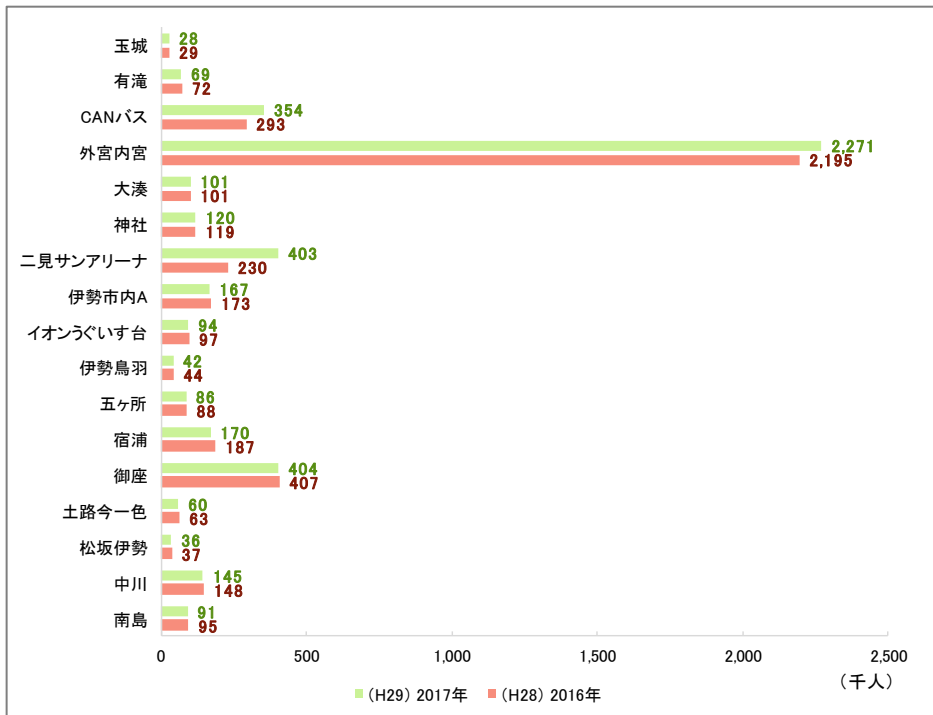
5-2. バス

(1) 路線バスの年間利用者数

本市の路線バスで最も利用者の多い路線は外宮内宮線で約2,270千人が利用している。この他には、御座線や二見サンアリーナ線で約400千人、CANバスで約350千人が利用しており、2016年（平成28年）と2017年（平成29年）の増減を比較すると、二見サンアリーナ線、神社線、外宮内宮線、CANバスで利用者が増加している。また、路線バス全体で約4,600千人が利用しており、利用者も全体として2016年（平成28年）と比較して増加している。

区間別の利用者では伊勢市駅前から宇治山田駅前間で最も多く、2017年（平成29年）には年間4,000千人以上の人利用しており、伊勢市駅から外宮、宇治山田駅、猿田彦神社や内宮など、主要な観光地を結ぶ区間の利用が非常に多くなっている。その他の郊外を結ぶ路線の利用者は全体的に少ない傾向がある。

路線名	主な停車バス停	(H28)	(H29)	増減
		2016年	2017年	
南島	伊勢病院前～伊勢市駅前～道方	94,600	90,900	-3,700
中川	山商前～伊勢市駅前～注連指・中村・田間	147,900	144,800	-3,100
松坂伊勢	伊勢市駅前～早馬瀬口	37,100	36,000	-1,100
土路今一色	土路～今一色	63,300	59,900	-3,400
御座	御座港～磯部バスセンター～伊勢赤十字病院	406,800	403,700	-3,100
宿浦	宿浦～伊勢市駅前～伊勢赤十字病院	187,300	169,800	-17,500
五ヶ所	磯部バスセンター～五ヶ所 五ヶ所～宇治山田駅	88,400	85,900	-2,500
伊勢鳥羽	伊勢市駅前～鳥羽バスセンター	43,900	41,700	-2,200
イオンうぐいす台	大蔵うぐいす台～イオン伊勢店	97,000	94,400	-2,600
伊勢市内A	浦田町～宮川中学校・伊勢赤十字病院	172,900	166,700	-6,200
二見サンアリーナ	二見～サンアリーナ 五十鈴川駅～サンアリーナ	230,100	402,500	172,400
神社	伊勢市駅前～一色町	119,000	119,700	700
大湊	伊勢市駅前～大湊	101,300	100,900	-400
外宮内宮	内宮前～外宮前～内宮前(庁舎または徴古館経由)	2,195,300	2,271,200	75,900
CANバス	宇治山田駅～内宮前～鳥羽水族館	293,000	353,800	60,800
有滝	有滝～イオン伊勢店	72,400	69,400	-3,000
玉城	伊勢市駅前～玉城町役場	28,500	28,200	-300
合計		4,378,800	4,639,500	260,700



図(表) 路線別年間利用者数の比較

資料：伊勢市

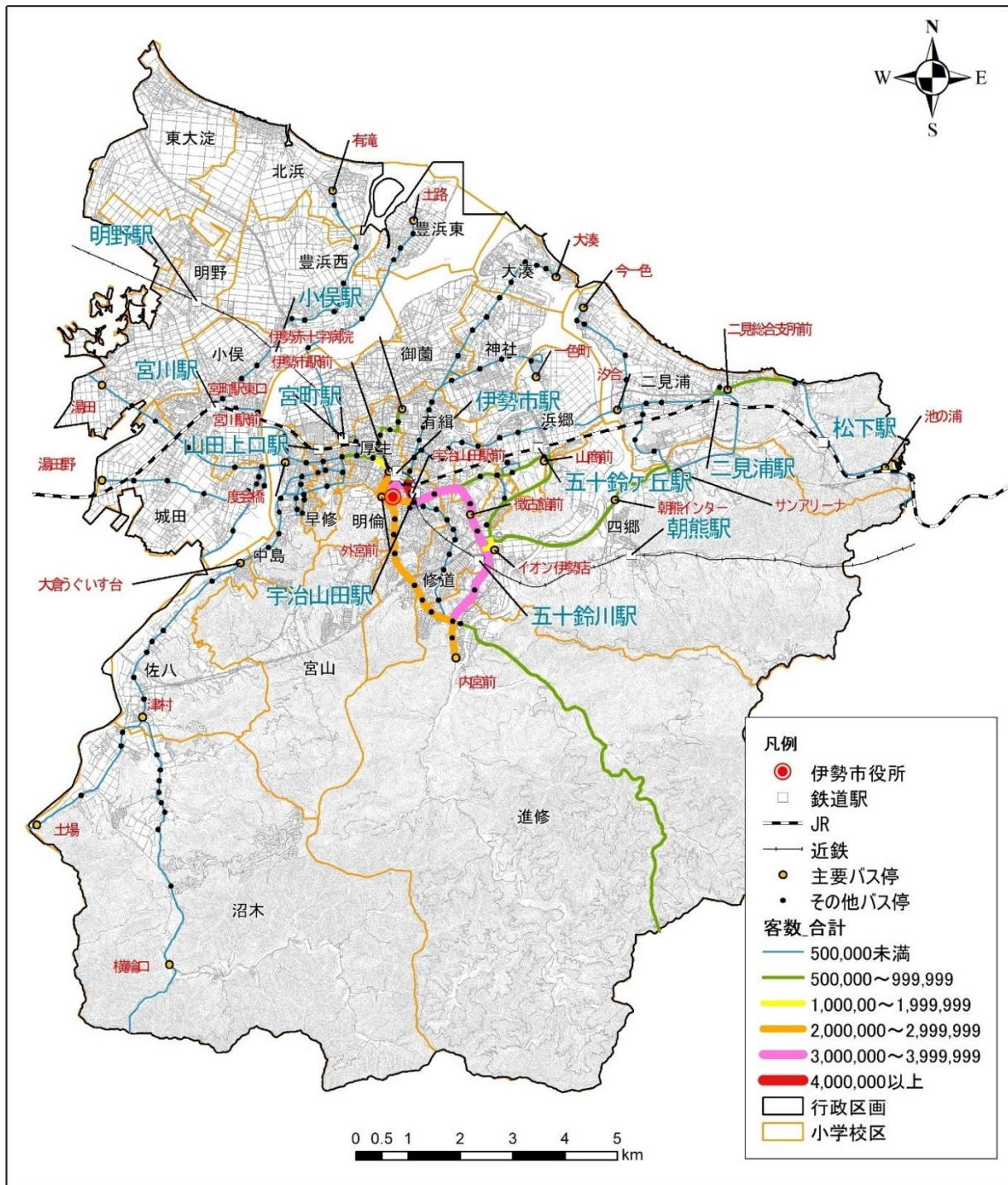


図 路線別年間利用者数（2017年（平成29年）実績）

資料：伊勢市

(2) コミュニティバスの年間利用者数

2018年(平成30年)の路線別の利用者数は、おかげバスの辻久留・藤里ルートの利用者数が約18,000人と最も多く、次いで東大淀・日赤ルート、二見ルートが多くなっている。辻久留・藤里ルートは2014年(平成26年)以降17,000～19,000人と横ばいで推移しており、東大淀・日赤ルート、二見ルートは増加傾向にある。

また、おかげバスデマンドでは粟野ルート、小木・田尻ルートで約1,000人以上の利用があり、沼木バスは買い物用が多い傾向がある。

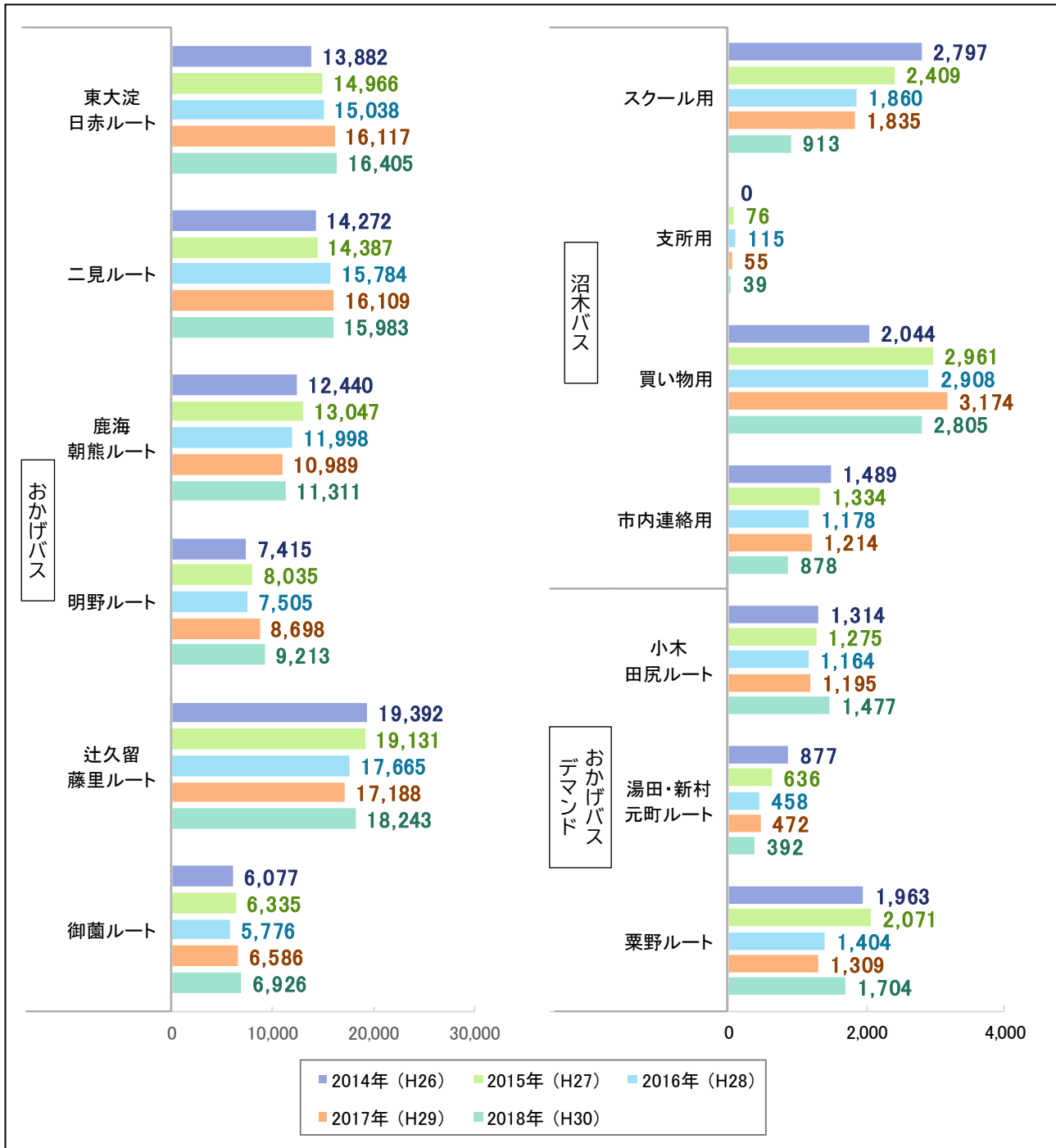


図 路線別年間利用者数の推移

資料：伊勢市

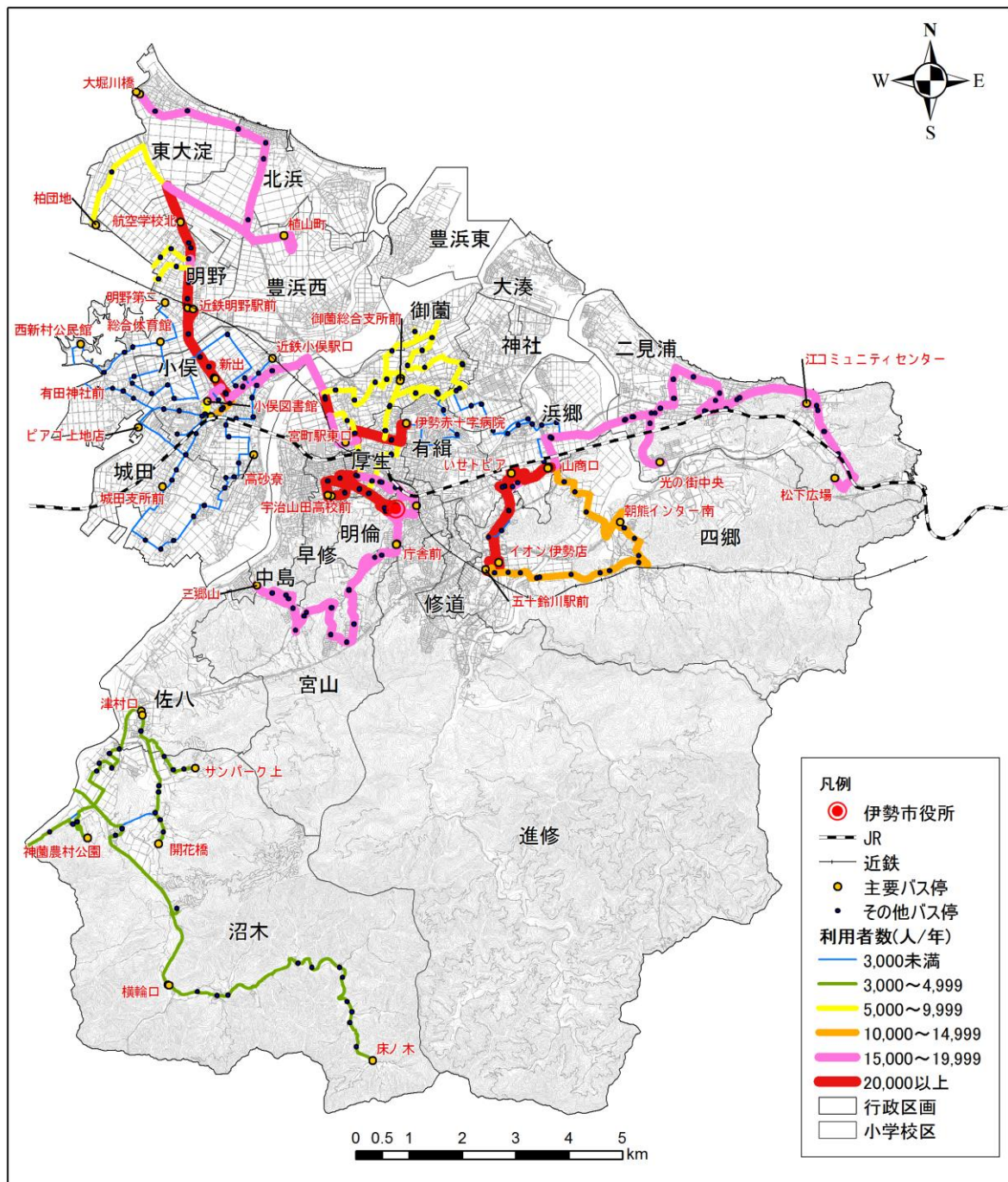


図 コミュニティバス区別年間利用者数（2018年（平成30年）実績）

資料：伊勢市

(3) 1日あたりのバス停別乗降客数

市内のバス停のうち、1日あたりの乗降客数の多いバス停としては、2018年（平成30年）は神宮（内宮）の最寄りバス停である「内宮前」が最も多く約2,000人/日以上が利用している。次いで、「宇治山田駅前」「伊勢市駅前」で約1,600～1,800人/日の利用がある。この他には、「外宮前」「五十鈴川駅前」「神宮会館前」などで利用者が多い。

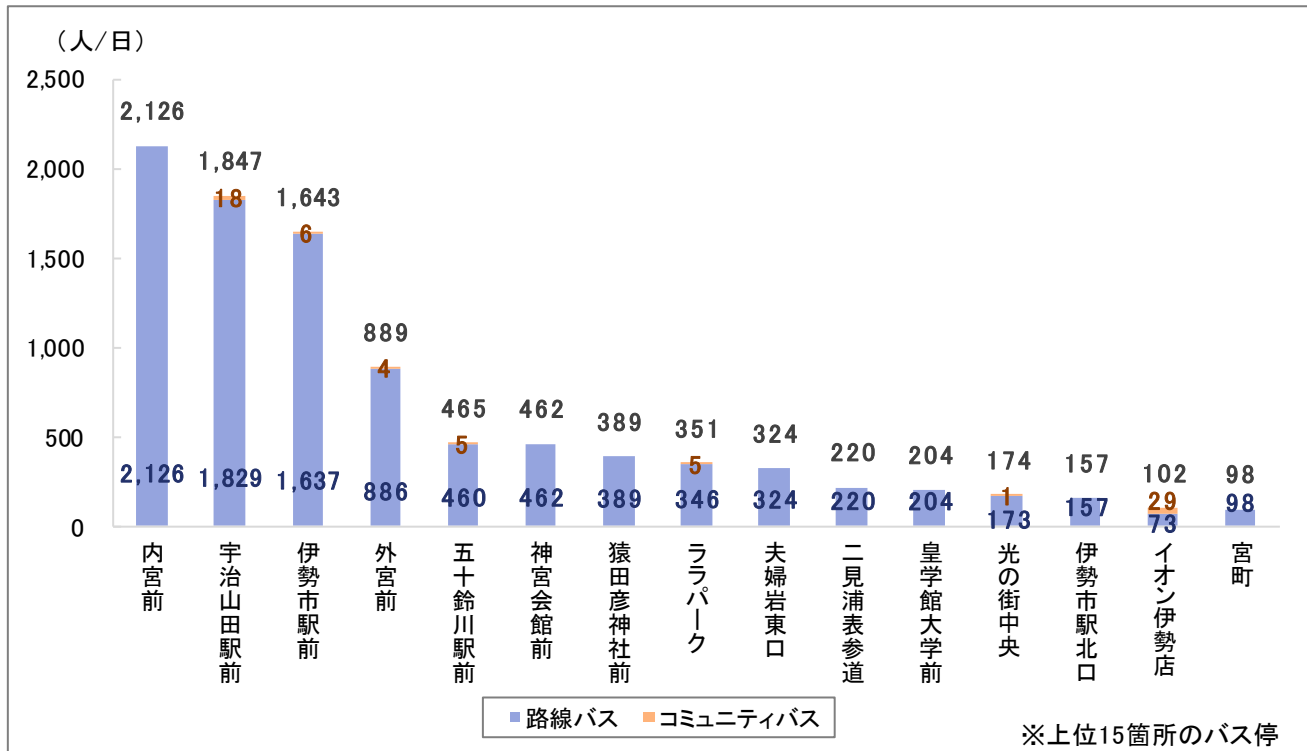


図 主要バス停の乗降客数

路線バス：2018年（平成30年）6月の日平均
 コミュニティバス：2017年（平成29年）6月の日平均
 資料：伊勢市

6. 道路

6-1. 広域道路ネットワーク

市内の道路の83.4%が市道となっており、そのうち約6.0%にあたる約62,000mが未舗装となっている。

表 道路の延長・橋梁箇所延長（2018年（平成30年））

区分	道路実延長	うち舗装道		うち未舗装道	橋梁		
	(m)	延長(m)	舗装率(%)	延長(m)	箇所	延長(m)	
市道	883,102.10	821,024.00	92.97	62,078.10	443	4,641.00	
県道	144,390.80	132,606.50	91.84	11,784.30	160	4,684.00	
国道	総数	32,038.40	32,038.40	100.00	—	58	2,585.10
	国管理	16,018.00	16,018.00	100.00	—	30*	1,233.00
	県管理	16,020.40	16,020.40	100.00	—	28	1,352.10

資料：伊勢市

※橋長2m以上かつ土かぶり1m未満の溝橋（カルバート）を橋梁として取り扱う。

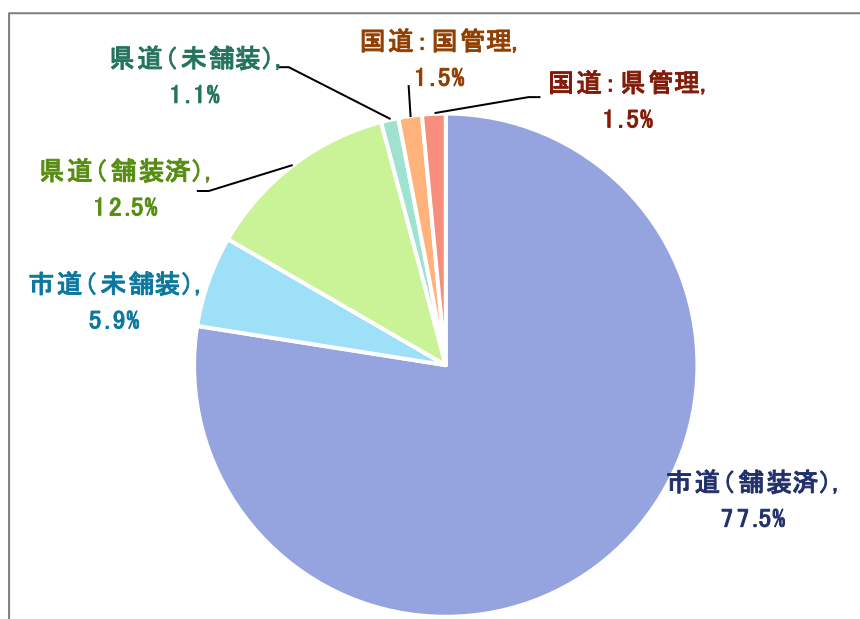


図 道路の舗装状況

資料：伊勢市（市道）

三重県伊勢建設事務所（県道）

国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所・三重県伊勢建設事務所（国道）

6-2. 都市計画道路

都市計画道路は、29路線、計81,304mが計画されており、2020年（令和2年）4月1日現在で76.9%（62,553m）が改良済みとなっている。

表 伊勢都市計画道路一覧（2020年（令和2年）4月1日時点）

名称		当初決定 年月日	直近の変更 年月日	延長 (m)	幅員 (m)	改良状況 (m)				
番号	道路名					延長	改良済	改良中	概成済	未改良
1・3・1	伊勢線	1982/1/19	2008/4/25	8,100	22.5	8,100	8,100		0	0
3・2・1	外宮度会橋線	1946/6/13	2011/8/19	4,230	36	4,230	3,270		960	0
3・2・2	南勢バイパス	1971/3/31	2008/4/25	14,820	30	14,820	14,820		0	0
3・3・3	山田二見線	1946/6/13	2011/8/19	6,460	22.5	6,460	5,050		150	1,260
3・4・4	外宮常磐線	1946/6/13	2008/4/25	1,130	18	1,130	1,130		0	0
3・3・5	坂社豊浜線	1946/6/13	2008/4/25	2,320	22	2,320	1,150		0	1,170
3・4・6	本町大湊線	1946/6/13	2011/8/19	4,970	16	4,970	740		1,340	2,890
3・4・7	下卯起宮川駅野依橋線	1962/3/27	2011/8/19	3,600	16	3,600	3,600		0	0
3・4・9	高向神田線	1950/3/31	2011/8/19	4,000	16	4,000	1,693	47	0	2,260
3・4・11	伊勢市駅北口線	1946/6/13	2011/8/19	400	16	400	0		100	300
3・5・14	御幸道路	1946/6/13	2008/4/25	5,120	15	5,120	4,460		80	580
3・3・15	豊川浦田線	1946/6/13	2008/4/25	3,110	22	3,110	1,350		1,760	0
3・4・16	秋葉山高向線	1946/6/13	2008/4/25	2,470	18	2,470	2,470		0	0
3・4・17	藤社御園線	1946/6/13	2008/4/25	1,840	16	1,840	1,840		0	0
3・5・18	前田小木線	1946/6/13	2008/4/25	2,150	12	2,150	0		1,020	1,130
3・5・19	前田黒瀬線	1946/6/13	2008/4/25	1,960	14	1,960	1,960		0	0
3・4・21	勢田楠部線	1982/1/19	2008/4/25	1,550	19.5	1,550	1,550		0	0
3・6・22	高向小俣線	1959/3/27	2019/2/20	2,870	9.5	2,870	1,280		0	1,590
3・5・50	本町宮川堤線	1946/6/13	2008/4/25	2,264	15	2,264	2,040		224	0
3・5・51	一之木神田線	1946/6/13	2011/8/19	1,940	15	1,940	740		330	870
3・3・52	岡本吹上線	1946/6/13	2008/4/25	350	22	350	280		70	0
3・5・53	八日市場宮川堤線	1946/6/13	2008/4/25	1,510	12	1,510	1,300		210	0
3・5・54	上口駅前線	1946/6/13	2008/4/25	650	12	650	650		0	0
3・5・55	一之木常磐線	1946/6/13	2013/4/19	1,350	12	1,350	1,350		0	0
3・5・56	宮後東紡線	1946/6/13	2011/8/19	250	12	250	250		0	0
3・5・57	宮後根起松線	1946/6/13	2008/4/25	150	12	150	150		0	0
3・5・58	世木社文庫線	1946/6/13	2008/4/25	580	12	580	580		0	0
3・5・59	八日市場高向線	1946/6/13	2008/4/25	1,100	15	1,100	690	183	0	227
3・5・60	二見浦交通広場アクセス線	2011/7/25	-	60	13	60	60		0	0
路線数	29	延長合計		81,304	-	81,304	62,553	230	6,244	12,277
							76.9%	0.3%	7.7%	15.1%

資料：伊勢市

※概成済：改良済以外の区間のうち、都市計画道路と同程度の機能を果たしうる現道（おおむね計画幅員の2/3又は4車線以上の幅員を有する道路）